



21世紀兵庫長期ビジョン 2040年への協働戦略

< 全県ビジョン改訂版 > 【概要編】

はじめに	(全県ビジョン見直しのポイント)	... 1
第1部	「21世紀兵庫長期ビジョン - 2040年への協働戦略」(全県ビジョン改訂)の趣旨と概要	... 2
第2部	兵庫の特性と潮流変化 <ul style="list-style-type: none"> ・これからの地域づくりに生かすべき兵庫の特徴や魅力 ・人口減少社会の到来、世界規模の構造変化など、ビジョン策定後顕著となった潮流変化 	... 3
第3部	県民意見、地域ビジョンの改訂から見ためざすべき姿 <ul style="list-style-type: none"> ・みらいフォーラムや地域夢会議等で寄せられた県民の意見を3区分(課題、将来像、取組に関する意見内容)で分析 ・地域ビジョンの改訂から見ためざすべき姿を分析 	...15
第4部	見えてきた課題群 <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな生活」「世界に開かれた兵庫」「持続する地域構造」に沿って地域が直面する課題や今後起こりうる課題を整理 	...17
第5部	これからの兵庫の将来像 <ul style="list-style-type: none"> ・全県ビジョンの社会像をフォローするものとして、兵庫がめざす将来の姿である「12の将来像」を提示 	...33
第6部	将来像を実現するための基本戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体が協働し、それぞれの将来像を実現するための基本姿勢、その取組方向である「12の協働シナリオ」を提示 	...34
第7部	長期ビジョンを着実に実現するための指標のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン実現状況の評価ツール、地域づくりに取り組む人々に新しい気づきや認識共有をもたらし、実践を促すための指標のあり方 	...88
参考資料	2040年の兵庫の暮らしのイメージ <ul style="list-style-type: none"> ・12の将来像と協働シナリオが実現した姿を、地域類型や県民の生活の視点から提示 	...90

はじめに (全県ビジョン見直しのポイント)

趣旨

長期ビジョンの策定から10年が経過する中、人口減少社会の到来、世界規模での構造変化など時代潮流が変わる中で地域課題が顕在化してきた。一方で、地域ビジョン委員の活動など県民主体の活動から、兵庫の「めざす姿」が次第に明らかになってきた。こうした動きを的確にとらえ、より県民に分かりやすいビジョンとするため、全県ビジョンの見直しに取り組んだ。

経緯・概要

平成19年度から全県ビジョン見直しに向けた時代潮流の調査研究に取り組むとともに、平成21年度から一般県民や若者などを対象にした「兵庫みらいフォーラム」などを通じて、幅広い層の将来への意見を集約してきた。併せて、長期ビジョン審議会において見直しの検討を重ね、平成23年11月に答申を受けた。今回の改訂では、「21世紀兵庫長期ビジョン - 2040年への協働戦略」として、現行の4つの社会像のもとでの新たな12の将来像、その実現のために地域社会を構成する多様な主体が共に取り組む12の協働シナリオなどを柱としている。

21世紀兵庫長期ビジョン - 2040年への協働戦略

兵庫の将来像

2040年にめざすべき兵庫の姿：創造と共生の舞台・兵庫

実現したい兵庫の姿（現行ビジョンの4つの社会像のもとでの12の新たな将来像）

社会像	将来像	見直しのポイント
創造的市民社会	1 人と人のつながりで自立と安心を育む	(創造的市民社会) 超高齢社会、人のつながりの希薄化に備える 1 人と人のつながりの中での自立・安心 ➢ 人のつながり・支え合いの中で個が自立し、生涯健康で安心して暮らせる共助の結わえ直し ➢ 新しい高齢者像の確立など、誰もが地域や社会での役割を実感できる兵庫
	2 兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する	2 次代を担う人づくり ➢ 創造性豊かに個性を發揮し、地域や世界の課題に貢献する人材育成
	3 次代を支え挑戦する人を創る	(しごと活性社会) 世界規模での構造変化を乗り越える 3 地域資源の徹底活用による地域のしごと創出 ➢ 歴史・文化、自然など地域資源を再評価・活用したしごとづくり ➢ 高齢者向け生活ビジネス、社会貢献型ビジネスの拡大・普及
しごと活性社会	4 未来を拓く産業の力を高める	4 世界化の中での成長産業 ➢ 県内の科学技術基盤の活用、成長分野の技術革新などによる世界と共に成長する産業づくり
	5 地域と共に持続する産業を育む	(環境優先社会) 食・エネルギーの自立力を高め、災害を最小限に抑える 5 自然の恵みを生かした自給持続力の向上 ➢ 農の担い手づくりと地産地消、多様な再生可能エネルギーの最適な組み合わせなどによる食とエネルギーの自立力向上
環境優先社会	6 生きがいにあふれたしごとを創る	6 災害に強い安全安心の地域づくり ➢ 風水害、地震、津波などの自然災害や大規模事故に対し、防災の基盤づくりに加え、逃げる・助け合うなどによる減災の重視
	7 人と自然が共生する地域を創る	(多彩な交流社会) 人口減少を逆手にとって地域をデザインする 7 人口減少などに対応した新しい空間活用 ➢ 今後生じる空き空間を地域の交流、就業、産業づくりの場などに効果的に活用
多彩な交流社会	8 低炭素で資源を生かす先進地を創る	8 狭域から広域まで多様な地域連携 ➢ まちからむらへの人の流れによる集落・都市双方の共生 ➢ 人材受入や環境、防災等での協力・貢献、経済・産業の一体的成長など、相互に補完しながら成長するアジア交流圏の形成
	9 災害に強い安全安心な基盤を整える	
	10 地域の交流・持続を支える基盤を整える	
	11 個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す	
	12 世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ	

基本姿勢

自立 と 連帯

- ◆ 豊かな個性を生かした人と地域の自立
- ◆ 人と人、人と地域が連帯する新しい地域社会

安心 と 活力

- ◆ 生活、産業、地域を支える安心
- ◆ 明日の兵庫を生み出す産業の活力

継承 と 創造

- ◆ 地域に根ざした豊かな自然と文化の継承
- ◆ 自然の恵みを生かした新しい価値の創造

兵庫の可能性を開花させるための12の協働シナリオ

地域社会を構成する県民、地域団体、NPO、企業、行政等が協働して将来像を実現していくための取組方向

協働シナリオ	
つながりによる家族・地域の再生	人と自然が共生した持続する地域づくり
生涯健康で生き生き活躍できるしくみと場づくり	低炭素・省資源による自立した地域づくり
地域と世界で活躍する次代の人づくり	災害に強い安全安心な地域づくり
国内外と一体で成長を生み出す産業づくり	確かな地域経営を支える交流・持続基盤づくり
地域を生かし共に持続する産業づくり	個性を生かし自立する多彩で元気な地域づくり
一人ひとりが持ち味を發揮できるしごとづくり	アジア交流圏による世界に開かれた兵庫づくり

地域の個性・強みを生かした地域ビジョンの改訂

改訂後の全県ビジョンのもとでの取組

< ビジョン推進方策の検討 >

ビジョンで示された将来像と、その実現のための協働シナリオを具体化する推進方策のあり方の検討

< 地域力指標の検討 >

ビジョンの実現状況の評価ツールになるとともに、地域の誇りと豊かさを実感できる尺度としての地域力指標の検討

< 改訂後の地域ビジョンとの連携 >

意欲ある県民の参画による実践活動、地域資源の活用、地域の担い手の広がりなど、これまでの地域ビジョン委員活動の成果などを踏まえながら、県民の参画をさらに広げるしくみの検討

第1部 「21世紀兵庫長期ビジョン - 2040年への協働戦略」策定の趣旨と概要

兵庫の未来像：創造と共生の舞台・兵庫

1 ビジョンの点検・見直しの必要性

- ・ビジョン策定後の時代潮流の変化などに伴う様々な地域課題の顕在化
- ・県民主体の多彩な地域活動の積み重ねを踏まえ、21世紀の兵庫づくりに向けた県民の取組が一層広がるよう、よりわかりやすく取り組みやすい形へと充実することの必要

2 ビジョンの実現状況と4つの社会像の意義

- (1) 実現状況 - 概ね実現に向けて進みつつあるが、地域での支え合いの仕組みの再生、地域産業の振興、就業機会の拡大、温室効果ガスの削減、防災基盤の確立、集落空間劣化への対応など、いくつかの分野で一層の取組が必要
- (2) 社会像の意義 - 時代潮流が変化中、支え合いによる安全安心の暮らし、地域資源を活用した創造的なしごとづくり、自然と調和した持続可能な地域づくり、地域間の連携や世界との交流拡大の取組は重要性を増しており、4つの社会像の意義はさらに高まっている

3 展望年次・想定年次

- ・展望年次(将来を考えるために見通しておく時期) : 2030年頃 2040年頃
- ・想定年次(ビジョン実現に向けた取組の時期) : 2010年頃 2020年頃

4 性格と役割

- ・県民主役・地域主導の自立的な地域づくりの指針
- ・地域ビジョンの実現を支援するとともに、市町、他府県域との連携・協働を図る基盤
- ・県の各分野計画等とも将来像を共有し、県政諸施策に反映

〔第4部〕見えてきた課題群

- ・時代潮流の変化や幅広く県民から得た意見を基に、地域が直面する課題、今後起こりうる課題を抽出
- ・基本課題(「豊かな生活」「世界に開かれた兵庫」「持続する地域構造」)に沿って整理

1 豊かな生活 (P17 - 21)

世帯が変容する中での生活の質の低下、セーフティネットとしての地域力低下、厳しい雇用就業環境で求められる多様な働き方

2 世界に開かれた兵庫 (P22 - 26)

世界とのさらなる結びつきが求められる兵庫経済、グローバル化の中での多文化との交流・共生、兵庫を支える人材の育成と集積

3 持続する地域構造 (P27 - 32)

疎住化が進む多自然地域の集落・地方都市における都市との交流や賑わいづくり、今後高齢化が加速する大都市・ニュータウンにおける多世代が豊かに住まうまちづくり

〔第5部〕これからの兵庫の将来像

- ・県民からの将来像に関する意見や進みつつある取組、地域ビジョンの方向、これまでの調査研究等を踏まえてとりまとめ
- ・全県ビジョンの社会像をフォローするものとして、めざす将来像をよりわかりやすく提示

1 兵庫の将来像 (P33, 35 - 85)

〔創造的市民社会〕

人と人のつながりで自立と安心を育む
兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する
次代を支え挑戦する人を創る

〔しごと活性社会〕

未来を拓く産業の力を高める
地域と共に持続する産業を育む
生きがいにあふれたしごとを創る

〔環境優先社会〕

人と自然が共生する地域を創る
低炭素で資源を生かす先進地を創る
災害に強い安全安心な基盤を整える

〔多彩な交流社会〕

地域の交流・持続を支える基盤を整える
個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す
世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ

2 兵庫の未来像 (P33)

- ・時代潮流や課題を踏まえて社会像ごとに見出した12の将来像を横断し、2040年にめざすべき兵庫の姿を示す

- 創造と共生の舞台・兵庫 -

〔第2部〕兵庫の特性と潮流変化

1 兵庫の特性 (P3)

- ・多様な地域特性や資源と愛着
- ・時代を先取りする進取の気性
- ・課題解決の技術の蓄積
- ・多様な産業活動の展開
- ・充実した生活安心基盤等

2 ビジョン策定後顕著となった時代潮流 (P4 - 14)

- (1) 人口減少社会の到来 - 人口減少・少子高齢化、人口の偏在化、世帯構成員の減少、高齢者世帯の増加、経済活動の担い手の減少等
- (2) 価値観や豊かさの変容 - 雇用の格差の広がり、高齢者の捉え方・住まい方の変化、生活の向上感の低下等
- (3) 世界規模での構造変化 - グローバル化の進展、多極化する世界経済、進む企業の海外進出等
- (4) 地球の限界 - 食料需給・エネルギー需給逼迫の可能性、生物多様性保全の重要性、身近な課題となった気候変動等
- (5) 生活に浸透する情報通信技術 - 暮らしに密着したインターネット、ネットワークが及ぼす光と陰
- (6) 公と民をめぐる変化 - 行政を取り巻く変化、地域づくり活動の拡大と担い手の多様化

〔第3部〕県民意見、地域ビジョンの改訂から見ためざすべき姿

1 県民意見から見ためざす姿の方向 (P15)

県民から得た様々な意見を課題、将来像、取組の3区分で整理し、それぞれ第4部の課題群、第5部の将来像、第6部の協働シナリオに反映

- (1) 課題提起 - 豊かさの見直しと生活の安全安心づくり、グローバル化の中での産業の活性化や多文化共生の地域づくり、地域の活力低下と持続する地域づくり
- (2) 将来像提起 - 共に支え合い安全安心が実感できる豊かで多様な暮らし、人が育ち集まることで活力や魅力がある世界に開かれた地域、多様な交流・連携により自立した地域
- (3) 取組提起 - つながりやゆとりの創出、多様な働き方の実現、兵庫・地域を支えるしごとの創出、人材の育成・集積、交流人口の拡大、地域資源の活用、住民主体の地域経営

2 地域ビジョンの改訂から見ためざすべき姿 (P16)

- ・元気で豊かな生活の実現
- ・地域が自立・持続するしくみづくり
- ・世界に開かれた地域づくり

〔第7部〕長期ビジョンをフォローアップするための指標(地域力指標) (P88 - 89)

1 改訂後のビジョンに対応した新しい指標の考え方

- ・美しい兵庫指標を再編し、経済的指標だけでなく環境、社会の側面から豊かさを明らかにする指標
- ・各地域の強みを県民主体で発見し、地域づくりの気運醸成につなげる県民参加型の指標づくり

2 地域力指標のイメージ

- ・地域の豊かさを表す指標群(12の将来像・協働シナリオごとにキーワードを設定し、指標のカテゴリー化・階層化)
- ・地域ビジョンと連携した地域資源数え上げ型の指標づくり
- ・地域の豊かさを柔軟に可視化できるツールづくり

参考資料 2040年の兵庫の暮らしのイメージ (P90 - 102) ・12の「将来像」と「協働シナリオ」が実現した姿をわかりやすく示す

第2部 兵庫の特性と潮流変化

1 兵庫の特性

各地域が持つ多様性が織りなす多彩な顔の魅力が兵庫の特徴
世界に開かれた窓口として多様な外国人と文化を受け入れ、わが国の文化・暮らしを先導するとともに、ふるさとを育み、日本を変えてきた地域

(1) 多様な地域特性や資源と愛着

- ・自然景観や食材、歴史文化等の魅力あふれる日本海側や中山間地域。最先端の科学技術や産業が息づく瀬戸内海臨海地域など、多様で個性ある広大な県土
- ・多様な地域資源、歴史、文化（世界文化遺産姫路城、山陰海岸ジオパーク、丹波竜、阪神間モダニズムなど）
- ・地域への強い愛着、高い誇り（住み続けたい県の上位）

(2) 時代を先取りする進取の気性

- ・先駆的な社会事業家を輩出（幼稚園、老人ホーム、周産期施設、消費者運動など）した進取の気性
- ・神戸開港以来、世界に開かれた窓口となり、新しくてよいものを素直に評価し受け入れる柔軟性と先進性

(3) 課題解決の技術の蓄積

- ・阪神・淡路大震災を経て培った防災のノウハウなど先進的な課題解決の技術

(4) 地域づくりに向けた蓄積

- ・5期10年にわたる地域ビジョン委員活動、さまざまな地域団体、NPOによる地域づくり活動の広がり蓄積

(5) 人と自然の共生の先進地

- ・尼崎21世紀の森、コウノトリの野生復帰をはじめとする先進的な自然再生の技術・経験

(6) 多様な産業活動の展開

- ・鉄鋼、機械などの基幹産業が集積し、ものづくりを支える基盤技術的産業が裾野を広げる形で存在。食品やファッション関連企業、外資系企業など多様な産業が集積し活動
- ・伝統の技が息づく特色ある地場産業や生活関連産業が存在し、全国や海外に通用するブランドも多数
- ・Spring - 8など知的基盤の充実により、新技術が創出

(7) 充実した生活安心基盤

- ・福祉のまちづくりの推進、生活創造活動の支援拠点、保健・医療・福祉関連施設や防災拠点など暮らしの安心基盤が充実

(8) 多彩で充実した社会資本

- ・陸海空で全国有数の広域交通基盤が充実。情報基盤など厚みのある社会資本

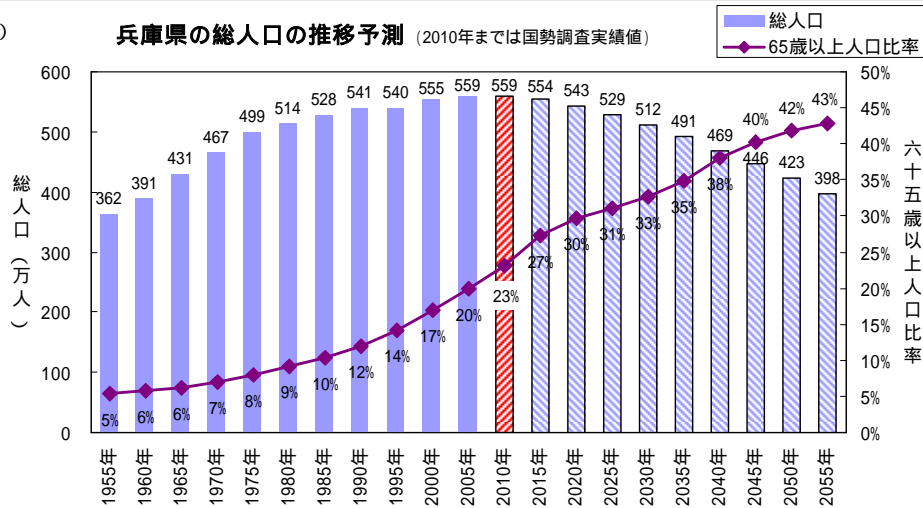
2 ビジョン策定後顕著になった時代潮流

(1) 人口減少社会の到来

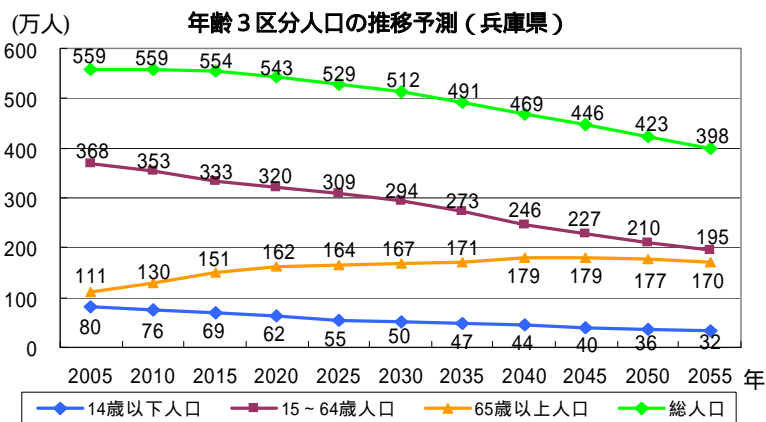
人口減少・少子高齢化

- ・県人口は現在の 559 万人をピークに減少に転じる見込み。2040 年(平成 52 年)には約 470 万人(2005 年(平成 17 年)比 16%減)に。(ビジョン策定時:2011 年の 574 万人がピーク、2030 年 536 万人に)
- ・2040 年、65 歳以上人口は 179 万人で人口比率は 38%(2005 年=111 万人、20%)、75 歳以上人口は 83 万人で人口比率は 21%(2005 年=49 万人、9%)の見込み。
- ・人口減少社会を迎える中、今後も 65 歳以上人口は増加が続く。

(図表 1)



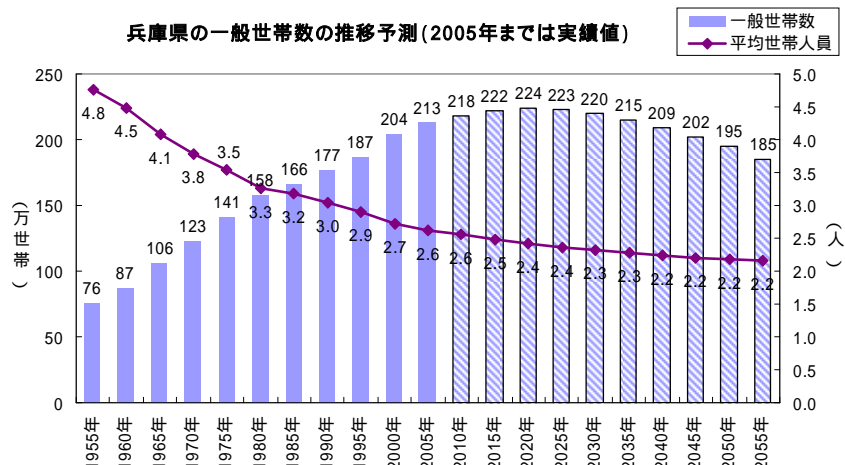
(図表 2)



世帯構成員の減少

今後も平均世帯人員の減少が続く。総人口が減少しても、世帯規模が縮小するため、世帯数は 2020 年(平成 32 年)まで増加する見込み。

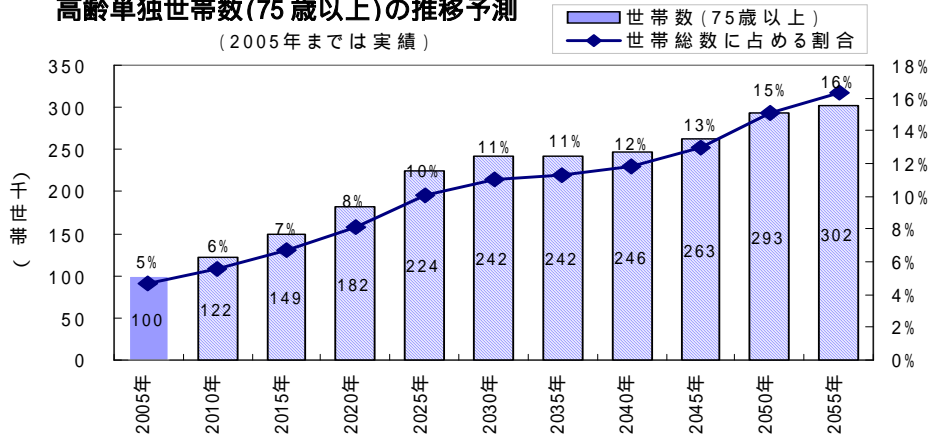
(図表 3)



高齢者世帯の増加

2040年(平成52年)、75歳以上の高齢単独世帯は現在の約2.5倍、世帯主75歳以上の高齢夫婦世帯は現在の約2.2倍に。

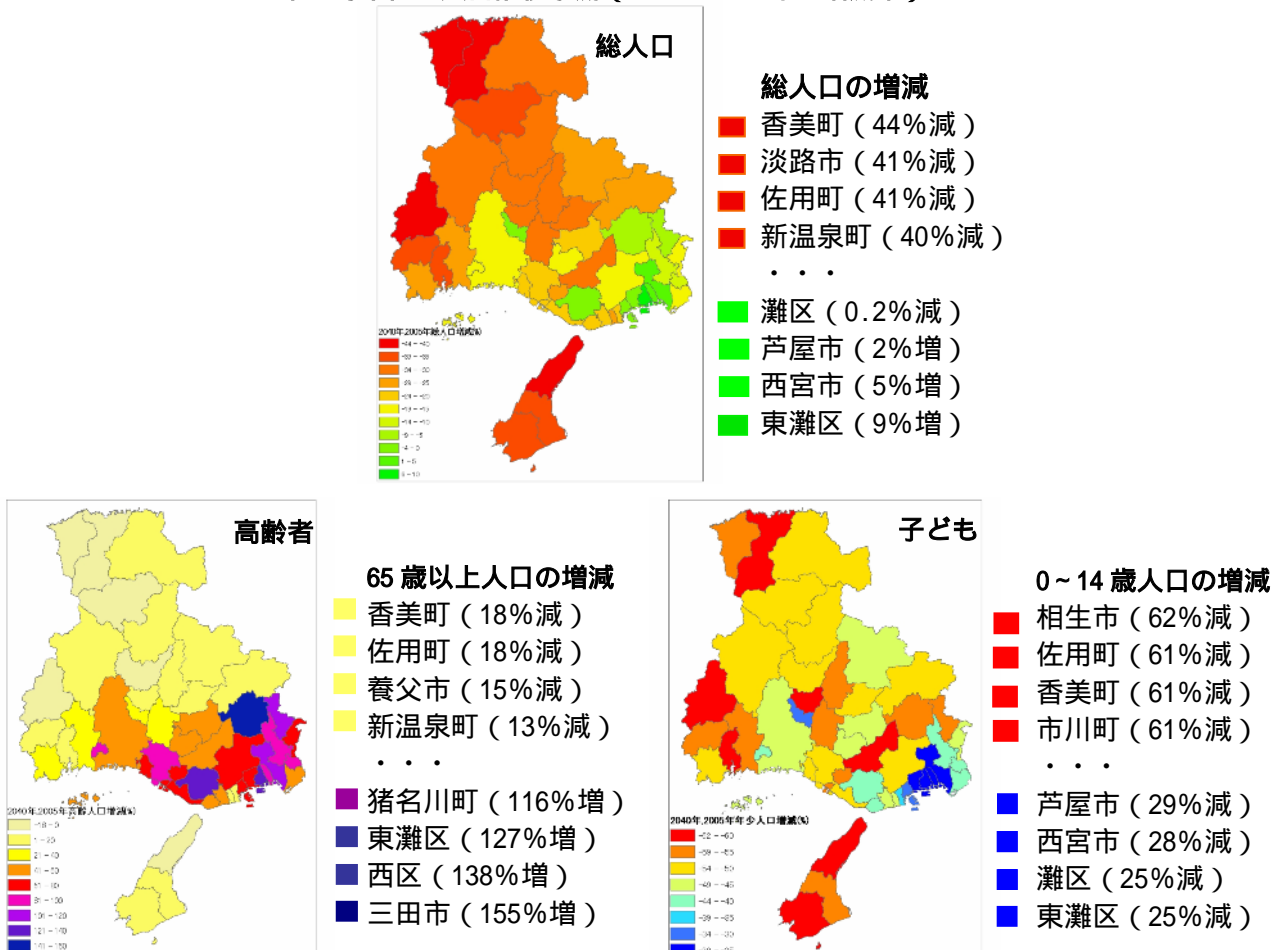
(図表4) 高齢単独世帯数(75歳以上)の推移予測
(2005年までは実績)



人口の偏在化、年少者・高齢者の偏在化

- ・神戸、阪神地域では2015年(平成27年)頃までに人口増加が続く見込み。一方、淡路、但馬、西播磨等の地域は人口減少が著しく、2040年(平成52年)頃には現在の6割を切る水準まで減少する市町も。
- ・年少者は県内全域で減少するが、その減り方は地域差が大きい。
- ・高齢者は、比率では県内全域で上昇するが、実数では現在より減少する地域と増加する地域に分かれる。

(図表5) 市区町単位の人口推移予測(2005-2040年の増減率)

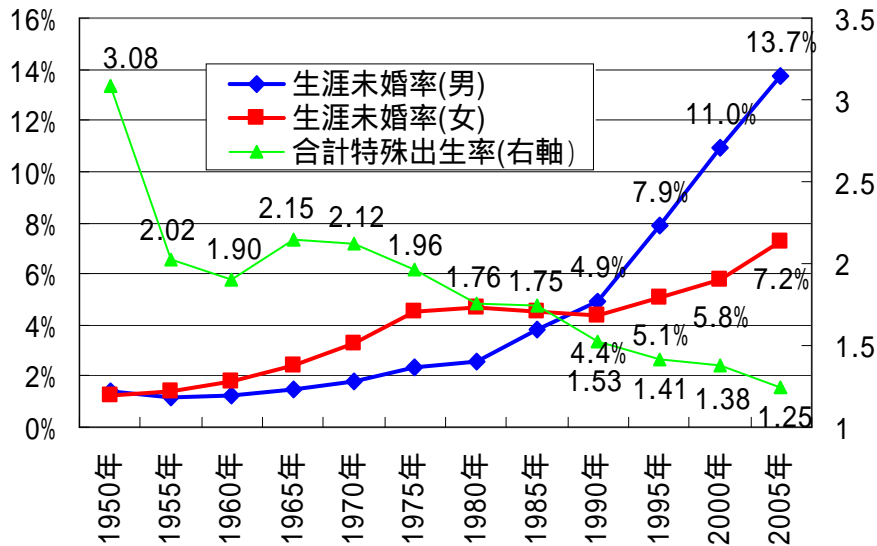


図表1~5 (出典)総務省「国勢調査」、兵庫県将来推計人口(2008年)を基に兵庫県ビジョン課作成

未婚化・晩婚化・夫婦の出生力の低下

人口減少につながる出生率低下は1970年代から見られ、その背景となる未婚化・晩婚化も進行。1990年(平成2年)以降、生涯未婚者が急増し、出生力のさらなる低下が懸念。少子化は人口減少社会の要因。

(図表6) 生涯未婚率と合計特殊出生率の推移(兵庫県)

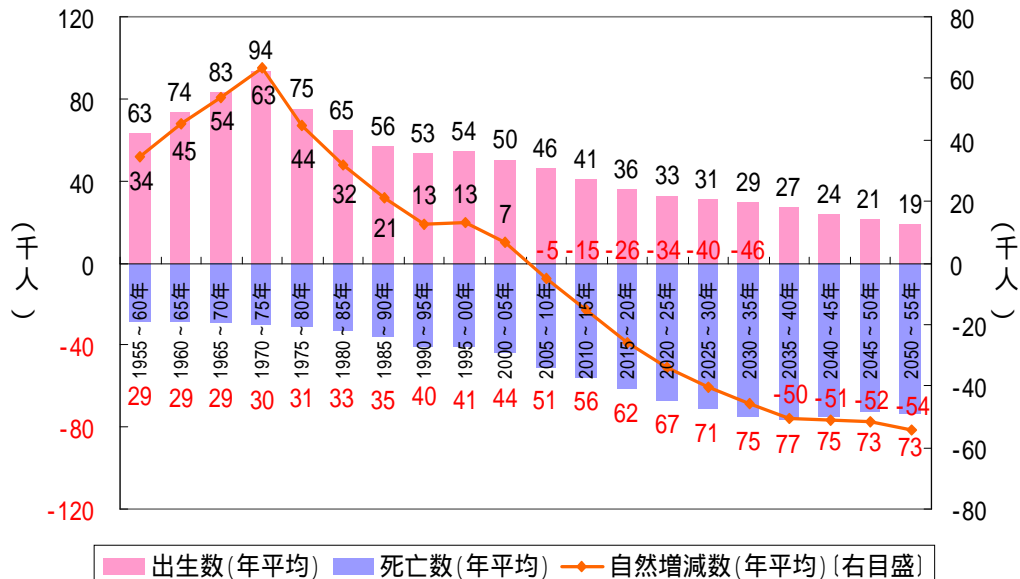


50歳時点で一度も結婚したことがない人の割合を「生涯未婚率」とした。
(出典) 総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態統計月報年計の概況」

人口の自然減少の拡大

出生数の減少は今後も続き、2040年(平成52年)には現在の約5割(24千人)の水準に。高齢化に伴い死亡数が増加し、人口の自然減少が拡大。

(図表7) 人口の自然増減の推移予測(2005年までは実績値)



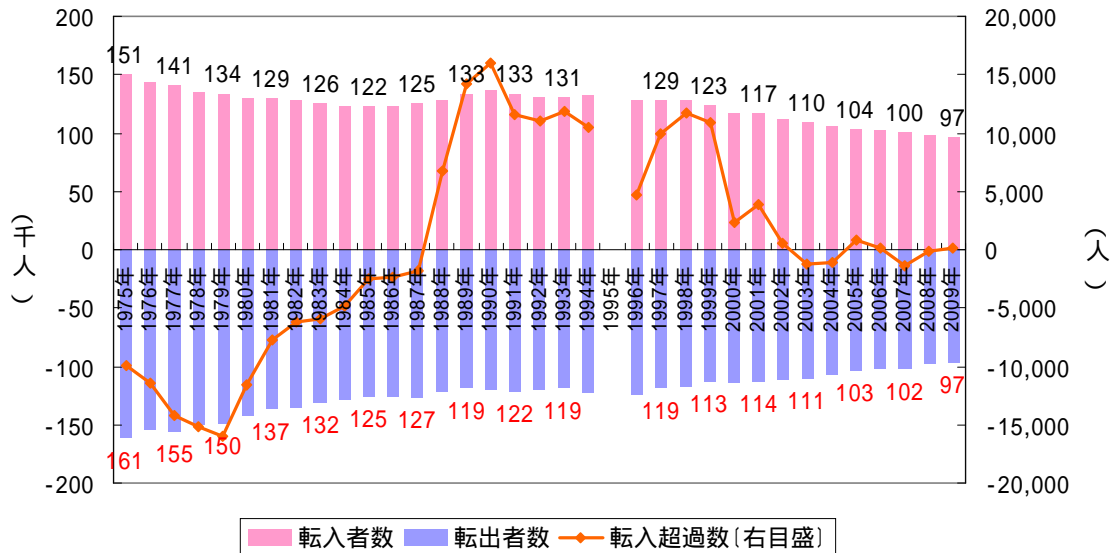
(出典) 総務省「国勢調査」、兵庫県将来推計人口(2008年)を基に兵庫県ビジョン課作成

近年、転入・転出が均衡する社会移動

1990年代は転入超過が続いていたが、2000年(平成12年)以降、県全体では社会移動が均衡しており、転入超過による人口増加はごくわずか。

(図表8)

転入者数・転出者数の推移(兵庫県)



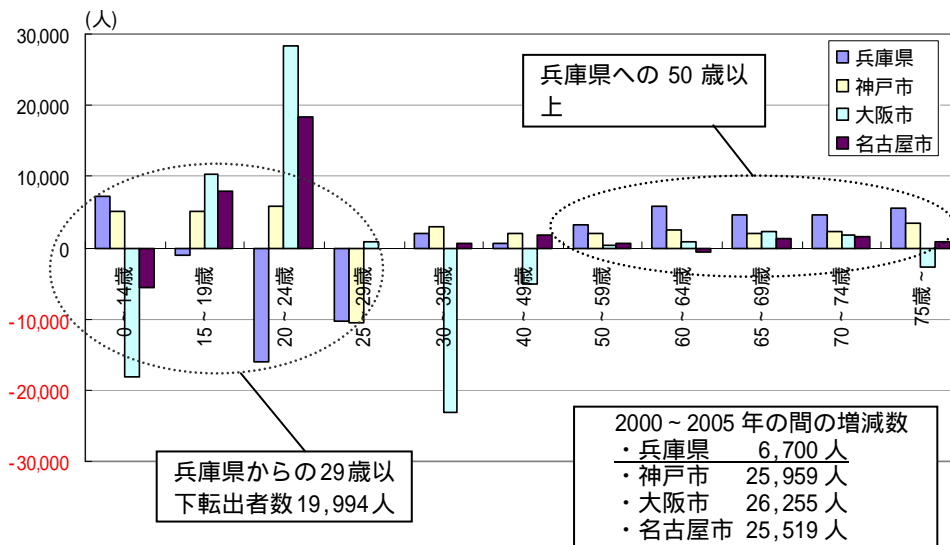
1995年は異常値として除去。
 (出典) 総務省「住民基本台帳人口移動報告年報 2007年」

中高齢者中心の兵庫県への転入

近年、県全体では若干の転入超過。他府県から兵庫県へ移動してくる年齢層は50歳以上の中高齢者が中心。

(図表9)

年齢別社会増減(2000年 - 2005年)



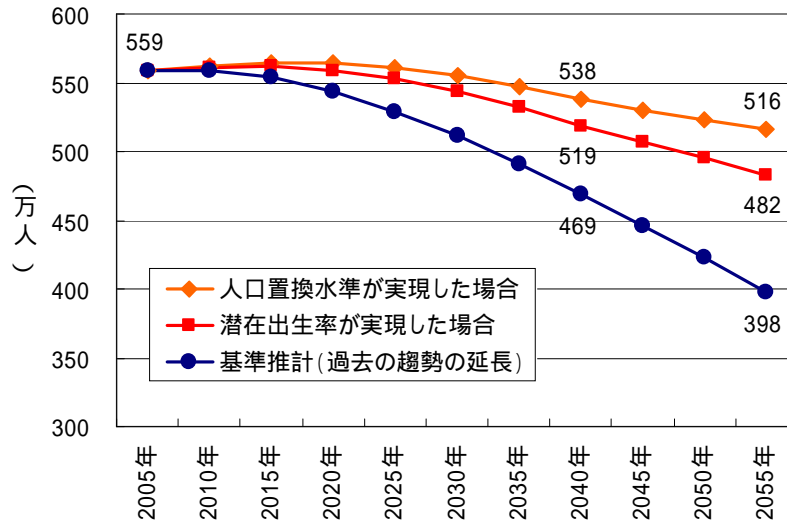
(出典) ひょうご経済第93号 年齢別の社会増減から人口問題を考える

出生率が上昇した場合(試算)

今後、総人口が減少局面に入ること自体は避けられないが、出生率が上がることで減少の程度は大きく緩和(2040年:基準推計 469万人 人口置換水準実現 538万人)。

(図表10)

兵庫県人口の推移予測(推計結果比較)



・「人口置換水準」が実現した場合

長期的に人口を一定規模で維持できる水準のこと。合計特殊出生率約2.07に相当。

・「潜在出生率」が実現した場合

若年世代(18歳以上50歳未満)の結婚・出産に関する希望(生涯未婚率10%以下、夫婦の子ども数2.1人)がかなった場合。合計特殊出生率約1.85に相当。

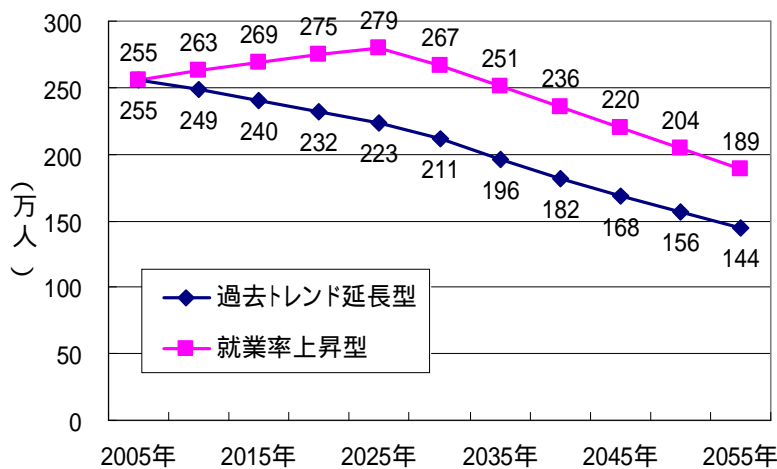
(出典)総務省「国勢調査」、兵庫県将来推計人口(2008年)を基に兵庫県ビジョン課作成

経済活動の担い手の減少

現在の性別・年齢別の就業率を前提とした、2040年(平成52年)の県内就業者数は、現在より73万人少ない182万人(2005年(平成17年)比29%減)に。

(図表11)

就業者数の推移予測



就業率上昇型:

今後20年で女性就業率が世界最高水準のノルウェー並みに、高齢者就業率が全国最高水準の長野県並みにまで上昇するとしたときの予測値

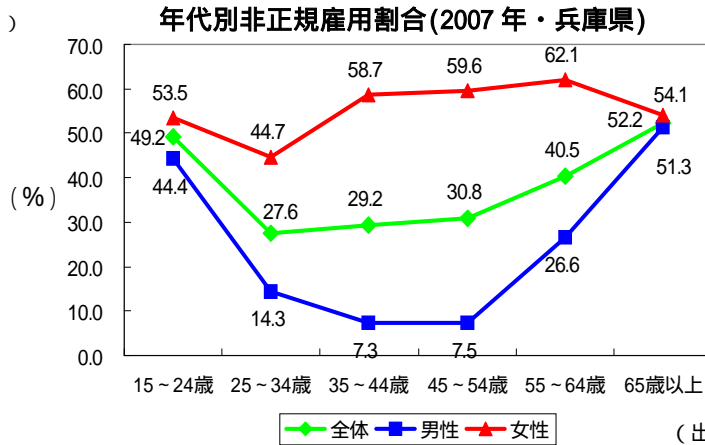
(出典)総務省「国勢調査」、兵庫県将来推計人口(2008年)を基に兵庫県ビジョン課作成

(2) 価値観や豊かさの変容

雇用の格差の広がり

若い世代を中心に正規雇用と非正規雇用の差が発生(全年齢非正規雇用割合:1997年(平成9年)24% 2007年(平成19年)34.5%。2007年の25~34歳非正規雇用割合27.6%)。所得などさまざまな格差感を生み出す背景に。

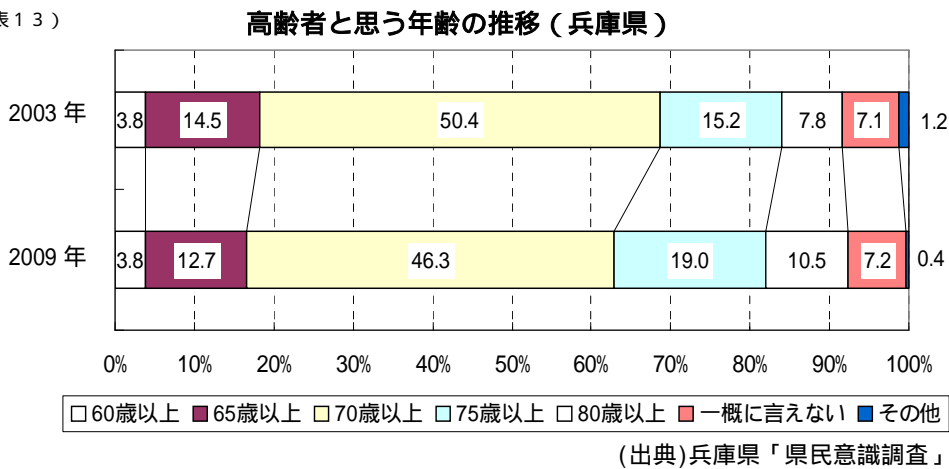
(図表12)



高齢者の捉え方の変化

「高齢者」と思う年齢は、65歳以上・70歳以上の比率が減少(2003年(平成15年)64.9% 2009年(平成21年)59%)、75歳以上・80歳以上の比率が増加(2003年23% 2009年29.5%)

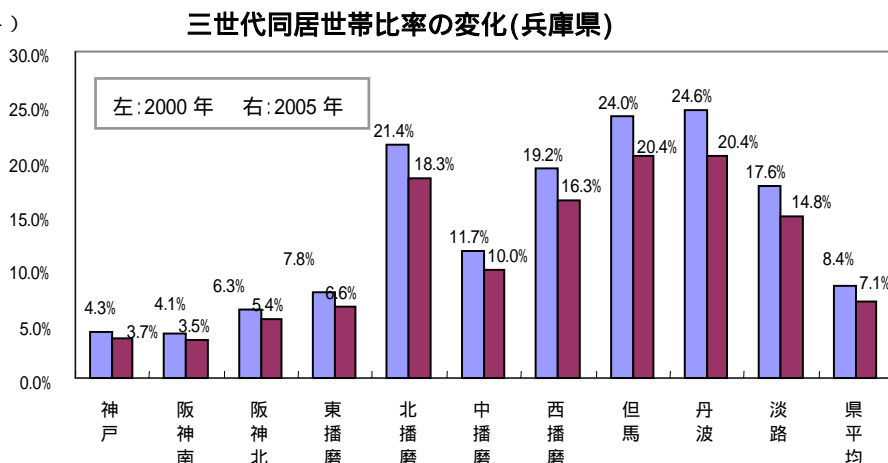
(図表13)



住まい方の変化

県内全地域で三世同居が減少。住まい方にも変化が生じている。

(図表14)



(3) 世界規模での構造変化

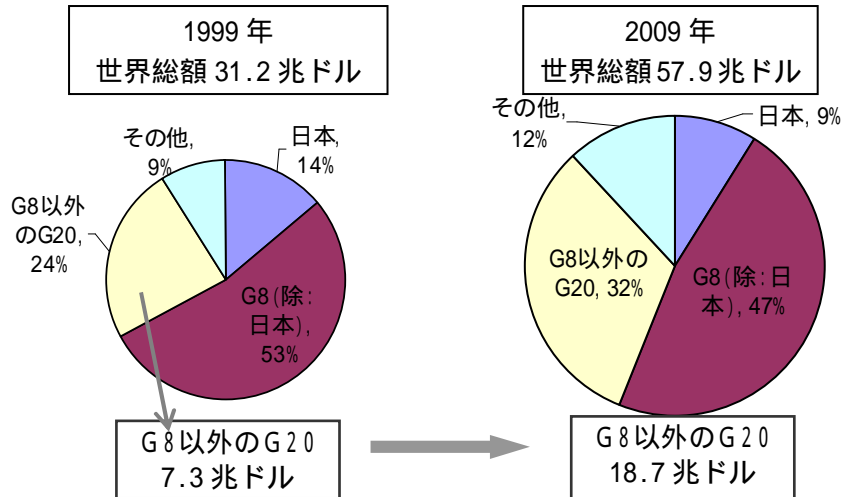
多極化が進む世界経済

資本・労働・情報等が国家を超えて活発に移動するグローバル化が進展。著しい経済成長を遂げるBRICsなどの新興国が出現。アメリカ一極からEU、アジアなどを加えて多極化へ。

名目GDPシェア：1999年G8 67%（うち日本14%）、G8以外 33%
 2009年G8 56%（うち日本9%）、G8以外 44%
 (BRICs：ブラジル、ロシア、インド、中国の頭文字を合わせた四カ国の総称)

(図表15)

名目GDPの世界総額の推移



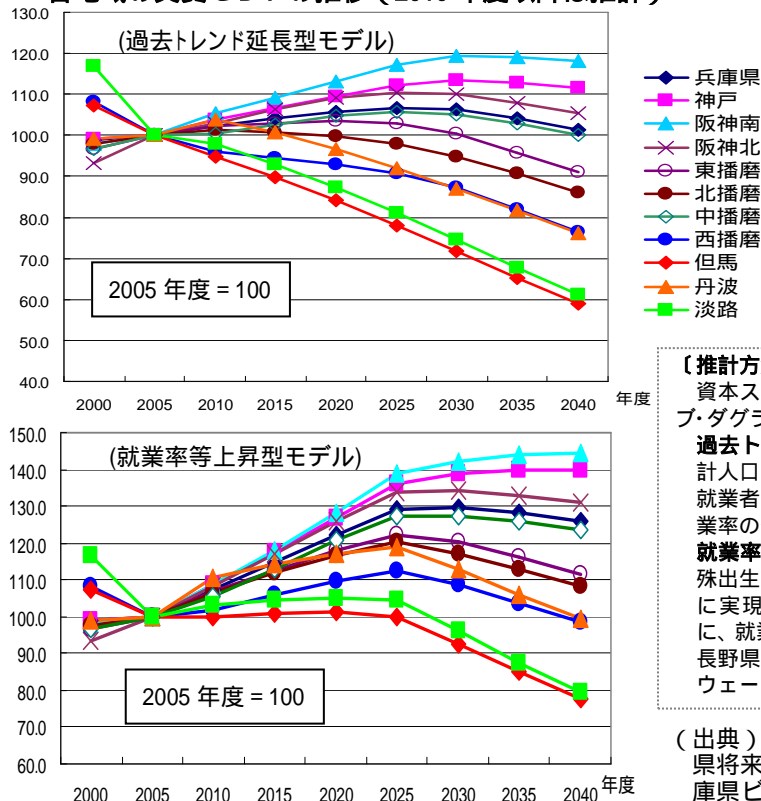
(出典) 国際通貨基金「World Economic Outlook April 2010」より兵庫県ビジョン課作成

右肩上がりの経済成長から成長の質が問われる時代へ

過去トレンド延長型でみた実質GDPは、西播磨、但馬、丹波、淡路の4地域において2040年(平成52年)度時点で、2005年(平成17年)度比20%以上の減少が見込まれる。一方、県全体の1人当たりGDPは、2025年(平成37年)頃以降から鈍化するも、引き続き成長を維持すると推計される。

(図表16)

各地域の実質GDPの推移(2010年度以降は推計)



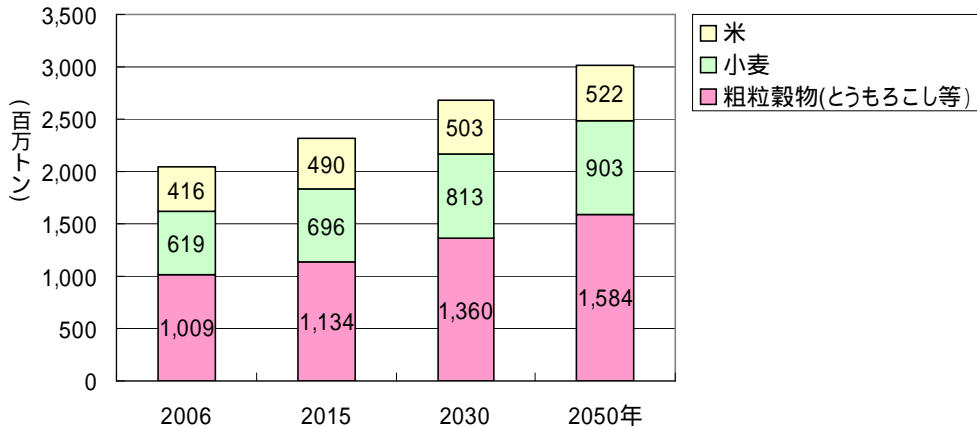
(4) 地球の限界

食料需給逼迫の可能性

2050年(平成62年)の世界の食料需要量は、とうもろこし等は人口増加、飼料用やバイオ燃料用の需要増加により2006年(平成18年)比で約6割増加、小麦、米も人口増加で増加する見通し。

今後、気候変動、農地面積の限界など生産面の制約により、食料需給が逼迫の傾向を強める可能性がある。

(図表17) 世界の穀物需要量の見通し

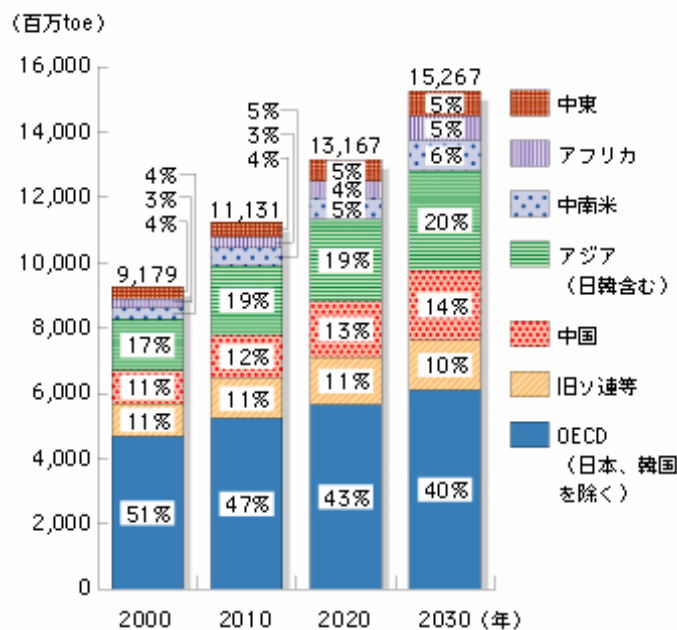


(出典)OECD-FAO「Agricultural Outlook2006-2015」
FAO「World agriculture: towards 2030/2050」

エネルギー需給逼迫の可能性

世界人口の増加、石油資源の枯渇などから、世界のエネルギー需給は今後逼迫する可能性が高い。また、国内でも東日本大震災に端を発した電力供給不足が長期にわたる可能性もあるなど、省エネとともに、再生可能エネルギーの利用が喫緊の課題に。

(図表18) 世界のエネルギー需要の将来見込み

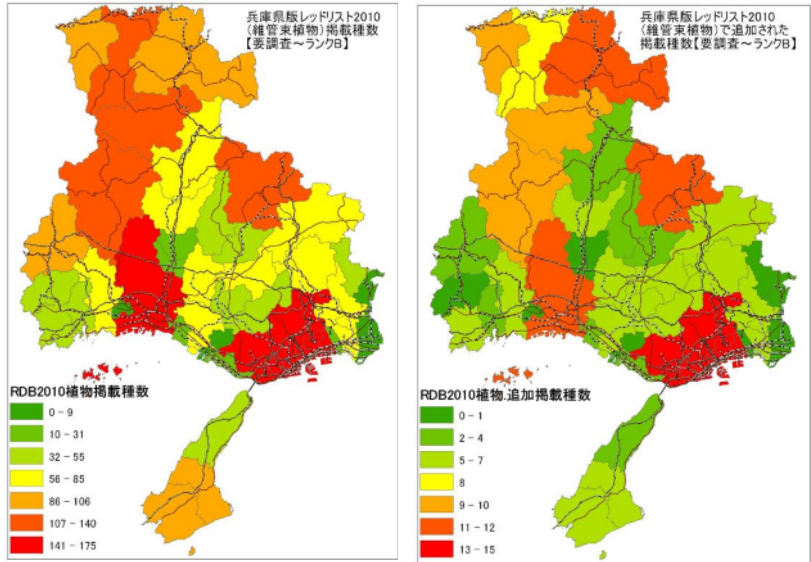


(出典)IEA「World Energy Outlook 2002」

生物多様性の保全の重要性

開発など人為的な影響、外来生物との競合、人の手により維持されてきた空間の劣化等の影響で絶滅の恐れがある植物が増加。野生動物による農業被害程度が大きく共存が難しい地域も。

(図表19) 兵庫県版レッドリスト2010(維管束植物)
〔左：掲載種数(要調査～ランクB) 右：追加掲載種数(要調査～ランクB)〕



《ランクA掲載種》

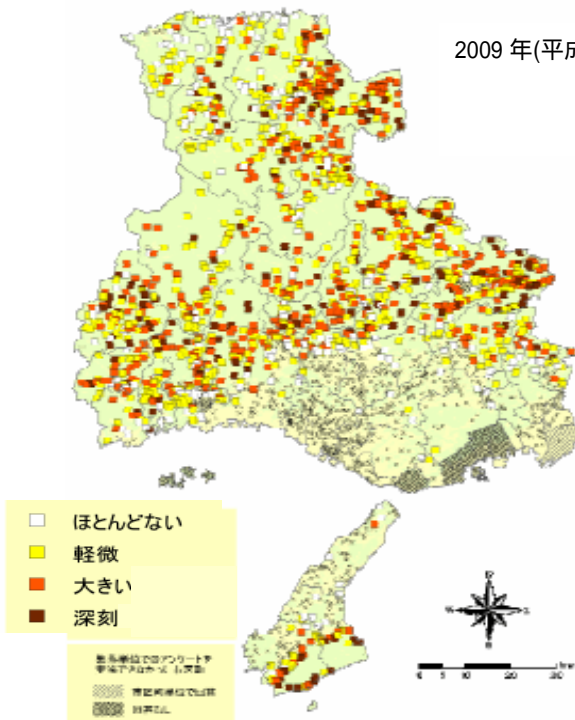
	ランクA	うち新規
摂津	82	7
東播磨	0	0
西播磨	1	1
但馬	97	7
丹波	50	3
淡路	58	4

- A: 県内で絶滅に瀕する種など、緊急の保全対策が必要な種
- B: 県内で絶滅の危険度が増大している種など、自生地などの保全が必要な種
- C: 県内で存続基盤が脆弱な種

要調査種: 今後の調査により貴重種になる可能性のある種

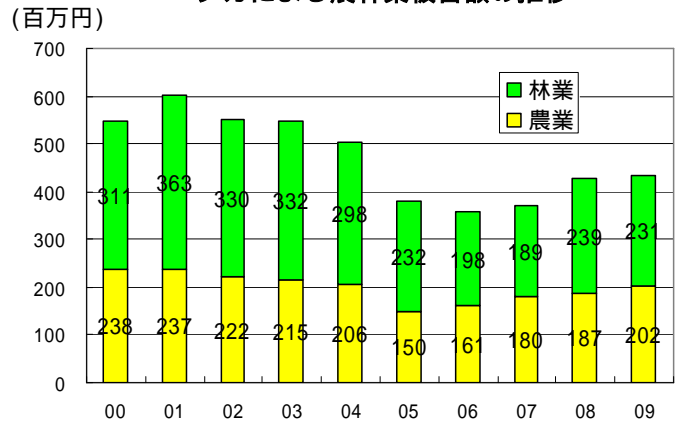
(出典)「兵庫県版レッドデータブック2010(植物・植物群落)」を
基にビジョン課作成

(図表20) ニホンジカの農業被害程度(農業集落アンケート)



(出典)兵庫県森林動物研究センター

(図表21) シカによる農林業被害額の推移



(出典)兵庫県農政環境部資料

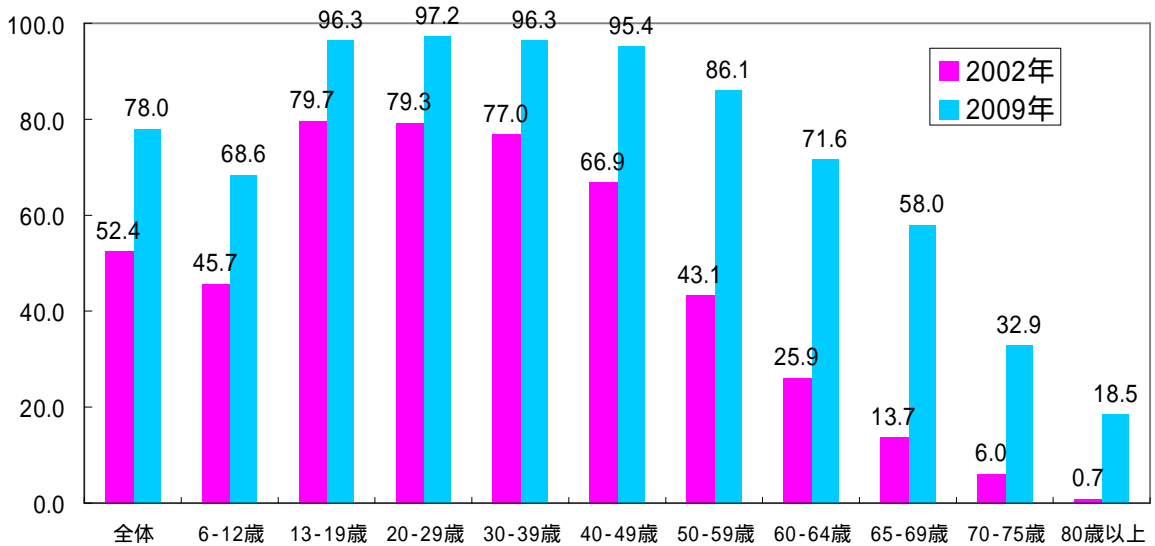
(5) 生活に浸透する情報通信技術

暮らしに密着したインターネット

インターネットの人口普及率が約8割に。若い世代を中心に、ネットショッピング等での利用が一般化するなど、インターネットは暮らしに密着したツールとして欠かせないものに。一方、リテラシーの低さから、利用者が犯罪に巻き込まれるケースも増加。

(図表2.2)

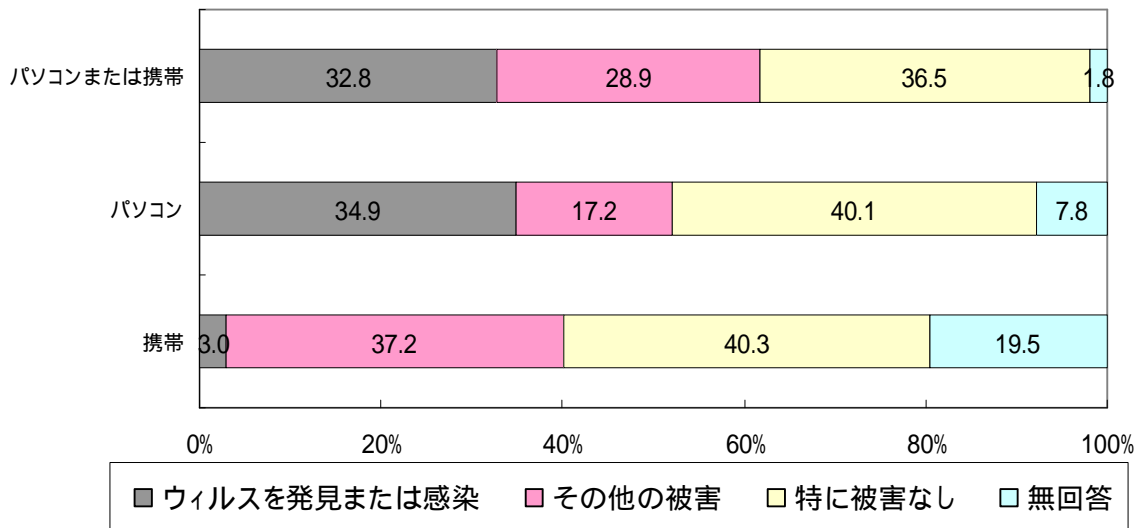
年齢階層別インターネット利用率(全国)



(出典) 総務省「通信利用動向調査」

(図表2.3)

インターネットを利用して受けた被害状況(全国)



< その他の被害の内容 >

- ・迷惑メールを受信
- ・ウェブ上での誹謗中傷等
- ・不正アクセス
- ・フィッシング
- ・スパイウェアなどによる個人情報の漏洩
- ・著作権の侵害など

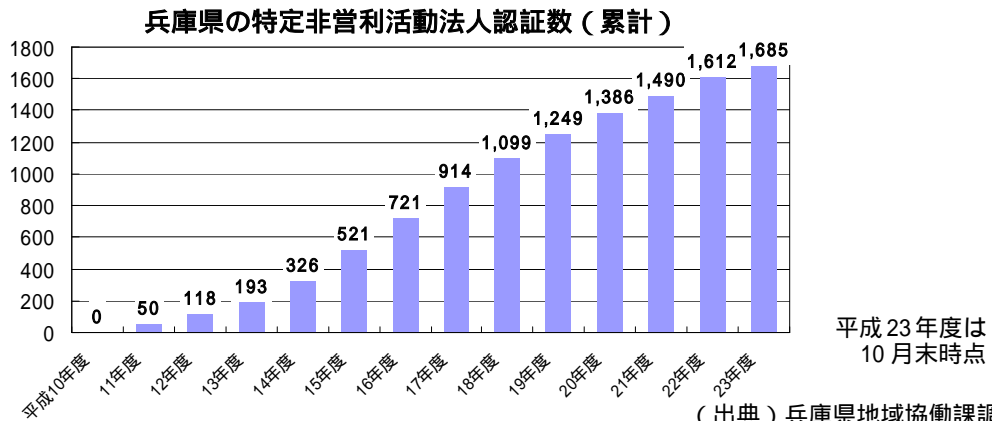
(出典) 総務省「通信利用動向調査」

(6) 公と民をめぐる変化

地域づくり活動の拡大と担い手の多様化

- ・認証を受けたNPO法人が急増(2000年(平成12年)度末:118法人 2010年(平成22年)度末:1,612法人)。保健・医療・福祉、社会教育、まちづくり、文化・スポーツ、環境保全など各地域で幅広い分野の活動を展開。
- ・ボランティア活動を行う団体・グループが増加、企業の社会貢献活動も拡大するなど、社会的、公共的サービスを自ら開拓し提供する、あるいは公共分野で行政と協働する動きが拡大。

(図表24)



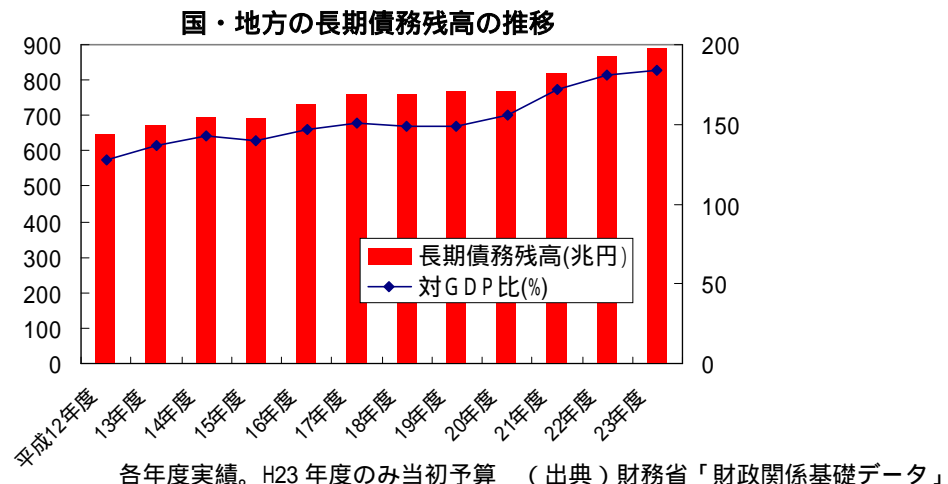
行政を取り巻く変化

- ・市町合併の進展により、県内の市町数は約55%減少。
- ・関西全体の広域行政を担う主体となり、分権型社会実現に向けて国からの権限移譲の受け皿ともなる「関西広域連合」が2010年(平成22年)設立。
- ・国・地方の財政赤字が膨張(国・地方長期債務残高の対GDP比:2011年(平成23年)度末184%の見通し)。
- ・県では、2018年(平成30年)度までの間に取組む改革内容を定めた「新行財政構造改革推進方策」を2008年(平成20年)度に策定。新しい県政を機動的に推進するなかで、未来を拓く活気に満ちた「元気で安全安心な兵庫」への飛躍をめざす。

市町合併の概要

市町数: 91市町 41市町(55%)
 人口規模: 1市町当たりの平均59,361人 136,356人(2.3倍)
 人口1万人未満の市町が皆減。全国唯一
 面積: 1市町当たりの平均92km² 205km²(2.2倍)

(図表25)



第3部 1 県民意見から見ためざす姿の方向

【県民意見の集約】

地域夢会議、兵庫みらいフォーラム等での意見交換、各種審議会、各種アンケート、ヒアリング等の意見を県民の夢データベースに集約（約4万件）

【整理・分析】

集約した全意見から出現頻度が高いキーワード(上位100)を抽出。(この概要編では上位約50を掲載) 県民一人ひとりの「生活」、開かれた地域としての「世界」、県民が活動する空間としての「地域」に分類、キーワードを含む文脈や意見内容からさらに「課題提起」「将来像提起」「取組提起」の区分で整理・分析。

【全県ビジョンへの反映】

・課題提起 第4部 見えてきた課題群
・将来像提起 第5部 これからの兵庫の将来像
・取組提起 第6部 協働シナリオ

1 課題提起(今後地域で生じてくる課題や対応すべき課題に関すること)

実感できない豊かさと生活の安全安心づくり

- ・高まる地域の子育ての必要性 単身高齢者の増加
- ・地域と学校の連携強化 地域の医療・介護・福祉の充実
- ・高齢者、障害のある人、女性など誰もがやりたい仕事につける労働体系
- ・介護の担い手不足 など

グローバル化の中での産業の活性化や多文化共生の地域づくり

- ・アジア市場での優位性の確保 製造業偏重からの脱却
- ・顧客ニーズ・マーケティング重視 商店街の活性化 外国人との共生 など

地域の活力低下と持続する地域づくり

- ・耕作放棄地の増加 地域づくりの担い手不足
- ・垂直化するコミュニティの増加 自動車依存の都市構造
- ・オールドニュータウンの増加 管理不十分な施設、空間の増加
- ・地球温暖化の影響、生物多様性損失等の環境悪化 など

＜現行ビジョンとの比較で特徴的なキーワード等＞
・農：担い手の高齢化、不足に伴う耕作放棄地の増加など、特に多自然地域で顕在化している問題

【出現頻度が高いキーワードと主な意見項目】

区分	順位	キーワード	キーワードを含む主な意見項目
生活	1	子ども	学童の居場所づくり、子どもの安全確保
	2	学校	少子化、教育環境の整備、地域との連携
	3	病院	医師の不足、病院経営の効率化と弊害
	4	家庭・家族	家族の小規模化、子育て家庭への支援
	5	仕事	多様な就労の場づくり、人材確保、UJIターン
	6	介護	担い手不足、独居老人の増加、老老介護問題
世界	1	情報	東京への情報の集中、情報漏洩、情報発信の人材
	2	日本	製造業への依存、グローバル化への対応の遅れ
	3	消費者	消費者ニーズ重視、流通の効率化、高齢消費者の動向
	4	商店街	シャッター商店街の増加、商店街の活性化、
	5	外国人	外国人との共生、子女の教育環境の整備
地域	1	農	担い手の高齢化、獣害、消費者の無理解、耕作放棄地
	2	コミュニティ	若年層の不参加、担い手不足、マンションコミュニティ増加
	3	環境	生物多様性の危機、地球温暖化、森林荒廃
	4	都市	ロードサイド型のまち、スプロール、オールドニュータウン
	5	住宅	空き家の増加、中古住宅の流通化、工場との隣接
	6	山	小規模民有林の荒廃、収益効率の低さ

2 将来像提起(兵庫・地域のめざす姿に関すること)

共に支え合い安全安心が実感できる豊かで多様な暮らし

- ・安全安心を地域で共有できるしくみの構築 自立した生活ができる社会の実現
- ・家族、様々な人、地域との新たなつながりの創生
- ・暮らしにうおいや感動を与える活動の活発化 確かなセーフティネットの構築 など

人が育ち集まることで活力や魅力がある世界に開かれた地域

- ・企業の地域ブランドイメージ活用の普及 環境産業の先進地化 職人技とデジタル技術の融合の実現
- ・創造性豊かな人材の育成の定着 世界の防災の先進地化 体験、参加型観光の定着 など

多様な交流・連携により自立した地域

- ・多様な交流・連携により支え合う地域と地域 人と自然が共生した暮らしや環境適合型の地域の構築
- ・所有と利用の分離による空き地の活用 自然エネルギーの活用、普及による脱化石燃料化の達成 など

＜現行ビジョンとの比較で特徴的なキーワード等＞
・空き：空き家、空き地等の活用
・つながり：家族、地域などでの様々な関係性の再生

【出現頻度が高いキーワードと主な意見項目】

区分	順位	キーワード	キーワードを含む主な意見項目
生活	1	安全安心	子どもを産み育てやすい社会、安心できる食
	2	生活	生活に根ざした文化醸成、心を育む生活環境創造
	3	つながり	つながりの再構築、多様な主体の連携
	4	世代	多世代交流・連携、次世代への継承
	5	健康	高齢者の社会参加、活性化する健康産業
	6	豊かさ	幸せを実感できる社会、空間や人との繋がり再生
世界	1	企業	地域ブランドイメージ活用、環境産業、地域貢献
	2	技術	職人技とデジタル技術の融合、光産業、知的創発拠点
	3	人材	兵庫ならではの人材育成、大学関連人材の活用
	4	世界	防災の課題解決、森林クレジット、食の安全安心
	5	観光	体験・参加型観光、地域資源の活用、ツーリズム
地域	1	集落	集落間の連携、都市農村交流、普段着の交流
	2	地域づくり	自然との共生、住民主体、EPC社会づくり
	3	空き	空間の余裕として活用、所有と利用の分離
	4	自然	付加価値がつく自然環境、生物資源の活用
	5	資源	交流が生む人的資源、観光資源活用、資源循環
	6	エネルギー	脱化石燃料化、自然エネルギー活用・普及

3 取組提起(課題やめざす姿の実現に向けての取組に関すること)

つながりやゆとりの創出、多様な働き方の実現

- ・多様な人材が活躍する社会づくり つながりを生む場づくり
- ・女性の社会参加の促進 出産、育児を支えるしくみづくり
- ・NPO、社会的起業の活性化 高齢者のための移動手段の確保
- ・独居老人の孤独への対処 子どもが安全・安心な地域づくり など

兵庫・地域を支えるしごとの創出、人材の育成・集積

- ・これまでの蓄積を生かした産業や人材の集積 付加価値を高めた産業の育成
- ・商店街と地域との連携 社会貢献活動のビジネス化 ベンチャー企業と大企業のマッチング など

交流人口の拡大、地域資源の活用、住民主体の地域経営

- ・地域住民が力を結集するしくみづくり 住民主体のエリアマネジメント
- ・森林からの恵みの活用 多様な主体の参画 ICT活用による地域活性化
- ・多世代参加のイベント開催 世界への地域の魅力の発信 など

＜現行ビジョンとの比較で特徴的なキーワード等＞
・人材：産業人材、高度人材、地域づくり人材などの集積、育成

【出現頻度が高いキーワードと主な意見項目】

区分	順位	キーワード	キーワードを含む主な意見項目
生活	1	人	多文化共生社会づくり、地域づくり人材の育成
	2	参画・協働	地域力の強化、財政危機への対応
	3	女性	子育て支援、女性の地域参加、女性の再就職
	4	ボランティア	まちづくり、若者の参加促進、行政との連携
	5	バス	コミュニティバスの運営、バス会社の合理化
	6	見守り	独居老人の見守り、通学時の学童の見守り
世界	1	技術	匠養成、高齢者の力活用、異業種間連携
	2	産業	高付加価値化、域外人材活用、福祉産業
	3	商店街	一店逸品、地域との連携、公共性の高い空間づくり
	4	中小企業	独自技術、バーチャル会社、環境関連投資
	5	ビジネス	社会ニーズ対応、モビリティ、ベンチャー企業マッチング
地域	1	連携	既存団体の連携、地域内連携、大学と地域の連携
	2	管理	指定管理、エリアマネジメント、疎住地の維持管理
	3	森林	パルプ・紙産出、集材材生産、排出権との連動
	4	活性化	よそ者、変わり者、若者の意見、情報通信技術活用
	5	イベント	多世代参加・交流、初参加者の優遇、SNS活用
	6	魅力	世界への発信、物語づくり、歩車共存のまちなみ

第3部 2 地域ビジョンの改訂から見ためざすべき姿

1 地域ビジョンの見直しの要点

- ・ビジョン策定後生じた地域の変化などを踏まえたものとして、地域夢会議等、様々な主体との意見交換により、地域像や取組方向の議論を深めながら、各地域ビジョン委員会がとりまとめ。
- ・阪神南・北地域：合同で見直し、両地域で共有できる阪神地域ビジョンとして改訂版をとりまとめ。
- ・東・北播磨地域及び中・西播磨地域：各地域独立したビジョンとしてとりまとめ。

地域名	改訂ビジョンの理念・将来像等	見直しの視点
神戸	・将来像：人々が集い、喜びと感動が共有できる「楽しいまち・神戸」 ・めざす都市像：「市民自律都市」「フロンティア都市」「コミュニケーション都市」	・現行ビジョンの将来像、都市像のもと、「安心・安全」「人づくり」「循環型社会」「多文化共生」「経済の活性化」等の方向から、夢提案の内容（取り組むべき方向）を充実させた。
阪神南	・基本理念：市民主体の幅広い社会経済活動を展開する阪神市民文化社会の創造 ・行動目標：「多様で個性的なライフスタイル」「自律と協働による温かいコミュニティ」「自然と豊かに調和した安全・快適な都市環境」「豊かさにとぎわいを創出する新たな阪神経済」	・現行ビジョンの基本理念、4つの行動目標のもと、「新しい公」のさらなる発展をめざす視点で、地域に集積する大学や学生・事業者・中間支援型NPO等との連携、阪神ベイエリアの再生、里山の保全と活用、地産地消など、市民社会の具体的な取組等を示した。
阪神北	・理念：水辺・ものづくりのまちで生きる ・将来像：「安らぎとぬくもりを感じられる心地いいまち」「自分らしさと生きがいを感じられる楽しいまち」「自然と文化の豊かさを感じられる美しいまち」「誇りと可能性を感じられる力強いまち」	・東播磨・北播磨がそれぞれビジョンを改訂することとし、「存在感のある東播磨」をめざし、営みの源となる「水辺」と活力を生み出す「ものづくり」を地域特性とした東播磨で、生き生きと暮らし、育ち、学び、働けることを理念として打ち出した。
東播磨	・将来像：「安らぎとぬくもりを感じられる心地いいまち」「自分らしさと生きがいを感じられる楽しいまち」「自然と文化の豊かさを感じられる美しいまち」「誇りと可能性を感じられる力強いまち」	・東播磨・北播磨がそれぞれビジョンを改訂することとし、現行ビジョンの将来像のもと、加古川流域で育まれてきた生活文化を中心とする「北播磨らしさ」の発揮と、「みんなが北播磨づくりに参画する」視点を重視して、地域像の見直しを行った。
北播磨	・将来像：ひょうごのハートランド ・地域像：「交流が広がる」「生活（暮らし）の絆が深まる」「文化が花開く」「恵み豊かな環境が持続する」「元気な産業が興る」	・東播磨・北播磨がそれぞれビジョンを改訂することとし、現行の地域の夢の構成要素を維持しつつ、より分かりやすく、より中播磨らしさが出るよう、南北交流のシンボルである銀の馬車道を基本姿勢に明示した。
中播磨	・基本姿勢：人の輪と地域の輪がつながる元気な中播磨をつくろう～つなぐ つながる 銀の馬車道～ ・4つの夢：希望が育つ、安全安心、自然豊か、元気交流	・中播磨・西播磨がそれぞれビジョンを改訂することとし、災害に強いまちづくり、地域資源を生かしたまちづくり、小規模集落対策など新たな地域課題を反映させ、基本姿勢と4つの夢を見直した。
西播磨	・基本姿勢：～光と水と緑でつなぐ～ 元気・西播磨～ ・4つの夢：人の輪社会、安全安心社会、環境王国、きらきら西播磨	・中播磨・西播磨がそれぞれビジョンを改訂することとし、災害に強いまちづくり、地域資源を生かしたまちづくり、小規模集落対策など新たな地域課題を反映させ、基本姿勢と4つの夢を見直した。
但馬	・めざすべき方向：あしたのふるさと但馬～コウノトリ翔る郷～ ・将来像：自立の郷、賑わいの郷、癒しの郷、慈しみの郷	・但馬づくりの原点を再確認・再評価するとともに将来像である4つの郷の実現に向けた行動目標（「人づくり」「産業づくり」「誇りづくり」「安心づくり」）を明確化した。
丹波	・理念：みんなで丹波の森 ・5つの将来像：「みんなで創る“自立のたんば”」「都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”」「やりがいを実感できる“元気なたんば”」「多世代が支え合う“絆のたんば”」「ともに暮らす“安全安心なたんば”」	・現行ビジョンの理念のもと、将来像について、誰もがわかりやすい方向を明確にし、課題認識を共有でき、課題の解決に協働して取り組めるように見直しを行った。
淡路	・理念：「命をつなぐ“持続可能な島”」「『経済』『社会』『環境』の調和がとれた新たな“幸せ社会”」「環境立島“公園島淡路”の理念の継承と発展」 ・目標：環境立島あわじ～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島”へ～	・グローバルな視点で淡路島の直面する課題を見つめる、淡路島の歴史から見えてくる可能性を見据える、持続可能性をキーワードに本当の幸せについて考える、を視点に理念と目標を見直した。

2 地域ビジョンの改訂から見ためざすべき姿

- ・地域ビジョンのめざすべき方向、行動目標等から、全県的に共通する事項を抽出
- ・全県のめざす将来の姿、協働シナリオに反映

＜改訂過程で見えてきた新たなめざすべき方向、行動目標など＞

- ・家族、地域などでの絆、つながりの再生、再構築
- ・優れた技術をもった人材などの集積、育成
- ・企業との連携による地域づくり、自然環境保全
- ・空き家、空き店舗等の活用による地域の活性化

【各地域のめざす方向、行動目標など(主なもの)】

- ・地域での強い絆やつながりが実感できる社会
- ・地域での子育て支援や要介護者の支援など見守り、支え合う地域
- ・医療や食の安全が確保されている地域
- ・高齢者から障害のある人まで誰もが暮らしやすい地域
- ・芸術・スポーツ等の活動や生涯学習、ボランティア活動など多様なライフスタイルを育む社会
- ・事故や犯罪のない安全な地域
- ・家庭と仕事が両立し働きやすい社会
- ・高齢者が経験者や能力を生かして活躍できる社会
- ・生きがいをもって働ける社会 など

- ・多様な文化・価値観を尊重する外国人にも暮らしやすいまちづくり
- ・優れた技術・研究基盤や蓄積を活かした人材の確保
- ・国際的な生産力・技術力を生かした「モノづくり」地域としての発展
- ・文化、環境関連、観光など新しい分野への挑戦
- ・新たな起業を支援、環境配慮企業の誘致、集積などによる新たな地場産業の形成 など

- ・都市住民や企業等との連携による自然環境の保全と活用
- ・都市住民の身近な故郷として継続的な交流人口の確保
- ・広域での地域交流、地域資源を生かした交流
- ・空き店舗の活用など賑わいと活力ある商店街の再生
- ・都市に自然豊かな空間を創造し、快適な都市環境を実現
- ・台風などの災害を教訓とした地域での体制づくり
- ・豊かな自然や歴史文化、伝統行事など地域の魅力の再発見
- ・生態系の保全や環境にやさしい行動
- ・美しい景観づくりの推進
- ・農をベースとした生活など農の多面的な価値を再評価した風土・景観形成の保全 など

【全県に共通する方向性】

＜元気で豊かな生活の実現＞

- (人と人のつながり・支え合い)
家庭や地域でのつながりの再生
地域と関係性を持つ人づくり
(健康で安心な暮らし)
子育て支援や高齢者を見守る仕組み
医療、介護、生活支援サービスなど必要な生活機能の確保
ワークライフバランスの実現
ゆとりある暮らしの実現
地域での安全、安心の構築
(多様な働き方の実現)
何度でもしごとに挑戦できる環境
誰もが経験や能力を生かし活躍できる環境

＜世界に開かれた地域づくり＞

- (多様な文化との交流・共生)
外国人が暮らしやすい地域空間の創出
外国人コミュニティとの相互理解の推進
(世界とつながるしごとづくり・人づくり)
人材育成と高度人材の確保
兵庫の魅力を世界に発信
地域の資源、技術を生かした産業の創出

＜地域が自立・持続するしくみづくり＞

- (地域の交流・連携による支え合い)
交流人口の拡大
地域間の多様な交流、連携
空きを活用した地域の活性化
良好な都市環境の構築
災害に強いまちづくり
(地域資源の活用)
身近な地域資源の再発見、ネットワーク化
ふるさとの誇りや愛着の育成
(環境の保全・創造)
生物多様性の維持、循環型社会への取組
農の多面的な役割・価値の再評価

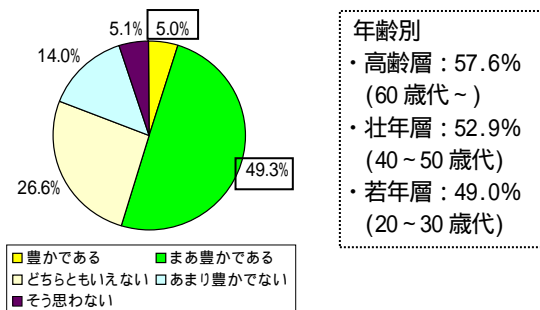
第4部 見えてきた課題群

【1 「豊かな生活」を考えるうえでの課題】

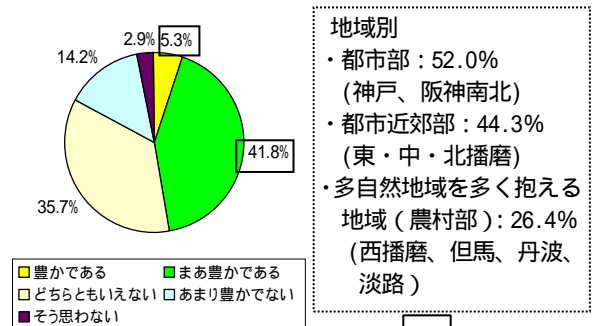
豊かさに関する意識

- ・平成22年に実施した県民モニター調査では、半数以上の人々が「現在の暮らしが豊かである」と考えており、高齢者ほどその割合が高くなる傾向にある。「住んでいる地域が豊かである」と考えている人は半数弱であり、都市部、都市近郊部、多自然地域を多く抱える地域の順に低くなっている。その差の要因として、住んでいる地域の買い物や通院の便利さ、高齢者や障害のある人の暮らしやすさが影響していることも考えられる。
- ・豊かな暮らしの実現のため、経済的な豊かさは必要不可欠なものとして最上位となっているが、「将来への希望」や「家族との信頼関係」など金銭的な価値では表現できない豊かさに関する項目も重視されている。

【現在の暮らしを豊かだと思う人の割合(図表1-1)】



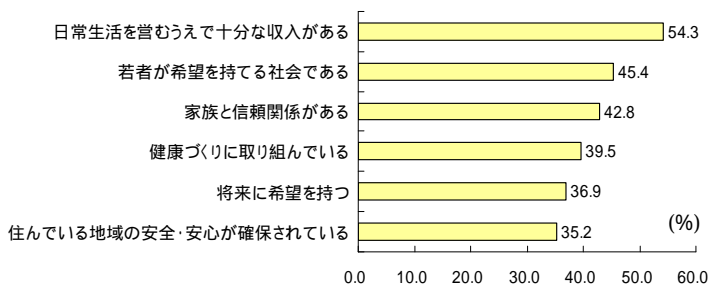
【住んでいる地域が豊かだと思う人の割合(図表1-2)】



【住んでいる地域に関して都市部と農村部でかい離の大きい項目(図表1-3)】

区分	全県	(A) 都市部	近郊部	(B) 農村部	差(A)-(B)
住んでいる地域は、買物や通勤に便利だ	78.7	82.6	79.1	56.8	25.8
住んでいる地域は、高齢者や障害のある人にも暮らしやすい	51.2	56.6	46.2	32.8	23.8
住んでいる地域に誇りや愛着を感じる	68.6	73.4	61.5	57.6	15.8

【豊かさの実現のために重要だと考える項目と年代別の傾向(図表1-4)】



	20~30歳代	40~50歳代	60歳代~
十分な収入	59.7%	56.9%	50.5%
将来への希望	51.0%	若者が希望を持てる社会(47.1%)	健康づくり(49.3%)
家族との信頼関係	44.7%	家族との信頼関係(45.8%)	若者が希望を持てる社会(45.9%)
若者が希望を持てる社会	41.3%	将来への希望(41.1%)	家族との信頼関係(39.9%)
家族と過ごせる時間	35.9%	地域の安全・安心(36.2%)	地域の安全・安心(36.5%)

(出典：平成22年 県民モニター「生活の豊かさを考える意識調査」 N=1,095) 図表4は複数回答)

(1) 家族が小さくなる中でのつながりの構築

人口減少とともに進む世帯人員の減少

- ・2040年(平成52年)の県内総人口は、1970年(昭和45年)と同規模の469万人になると予測されるが、世帯類型は大きく変化し、「単独世帯」が2025年(平成37年)以降構成比で最大となる。
- ・単独世帯の大幅な増加から生活不安などが顕在化するとともに、地域コミュニティ、家庭への関わり方や住まい方の変化が求められる可能性がある。

【全県、神戸市、但馬地域()世帯構成割合の推移予測(図表1-5)】

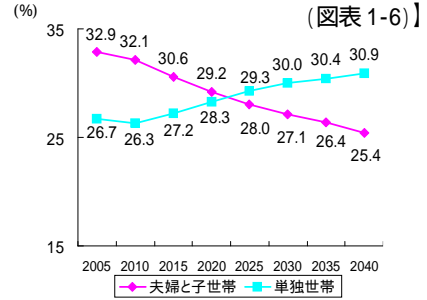
1970年			2005年			2040年					
順位	全県	神戸市	豊岡市()	順位	全県	神戸市	但馬地域	順位	全県	神戸市	但馬地域
1	夫婦と子世帯 (48.6%)	夫婦と子世帯 (49.6%)	夫婦と子世帯 (40.9%)	1	夫婦と子世帯 (32.9%)	単独世帯 (33.2%)	その他 (27.9%)	1	単独世帯 (30.9%)	単独世帯 (37.3%)	夫婦のみ世帯 (27.0%)
2	その他 (主に三世代同居) (22.6%)	その他 (主に三世代同居) (16.9%)	その他 (主に三世代同居) (37.8%)	2	単独世帯 (26.7%)	夫婦と子世帯 (30.8%)	夫婦と子世帯 (23.9%)	2	夫婦のみ世帯 (26.3%)	夫婦のみ世帯 (24.8%)	単独世帯 (22.9%)
3	夫婦のみ世帯 (11.7%)	夫婦のみ世帯 (13.2%)	夫婦のみ世帯 (8.8%)	3	夫婦のみ世帯 (21.0%)	夫婦のみ世帯 (20.6%)	夫婦のみ世帯 (20.7%)	3	夫婦と子世帯 (25.4%)	夫婦と子世帯 (23.3%)	夫婦と子世帯 (21.4%)
4	単独世帯 (9.6%)	単独世帯 (12.3%)	単独世帯 (6.6%)	4	その他 (10.6%)	ひとり親と子世帯 (9.0%)	単独世帯 (19.7%)	4	ひとり親と子世帯 (9.4%)	ひとり親と子世帯 (9.5%)	その他 (20.7%)
5	ひとり親と子世帯 (7.5%)	ひとり親と子世帯 (8.1%)	ひとり親と子世帯 (6.0%)	5	ひとり親と子世帯 (8.7%)	その他 (6.5%)	ひとり親と子世帯 (7.7%)	5	その他 (8.0%)	その他 (5.1%)	ひとり親と子世帯 (8.0%)

1970年の国勢調査報告は、各市と全県郡部のみのため豊岡市を記載。その他の内訳は、主に三世代同居等
(出典：国勢調査、兵庫県の世界数の将来推計 兵庫県ビジョン課)

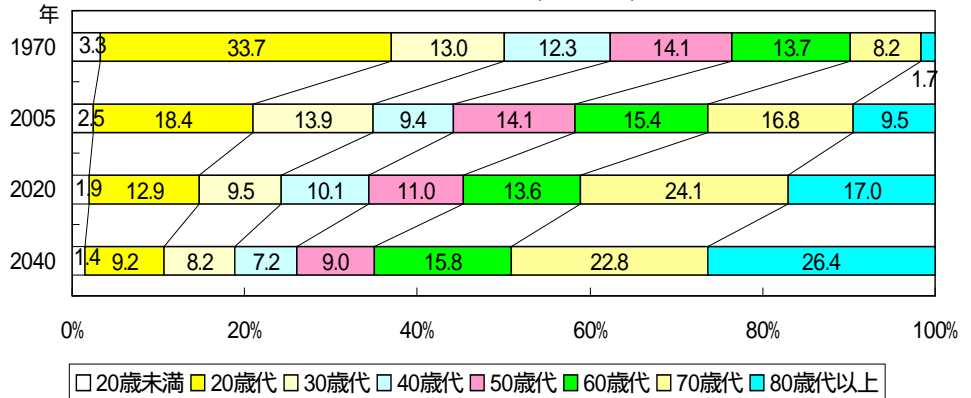
世帯の単身化・高齢化進展による生活不安の増加

- ・単独世帯の内訳では2015年(平成27年)以降、60歳以上世帯が5割を超え、特に70歳以上は、2040年(平成52年)には最大のウェイトとなる。
- ・都市部やニュータウンの高齢化は、今後、率・数双方が高まるが、特にニュータウンではその傾向が強い。
- ・介護や財産管理などをはじめ、老後の暮らしに不安を感じる割合も増加傾向にある。

【全県単独世帯と夫婦と子世帯推計 (図表1-6)】

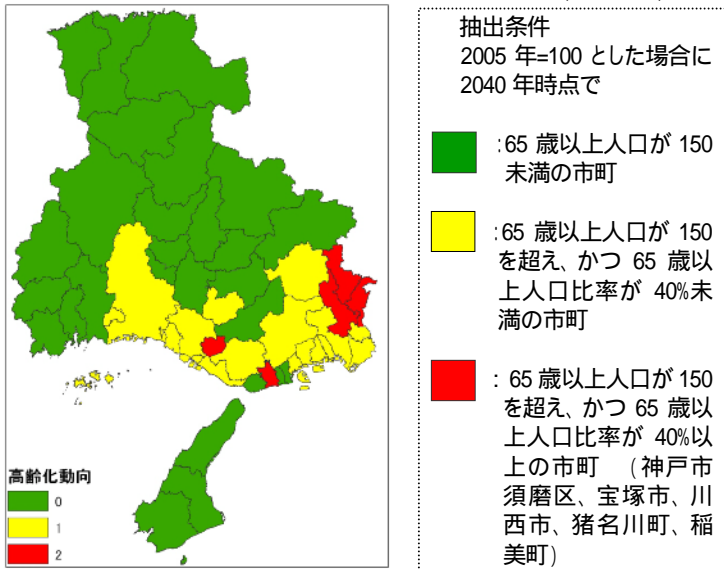


【本県単独世帯年代別構成比 (図表1-7)】



(出典：国勢調査、兵庫県の世界数の将来推計 兵庫県ビジョン課)

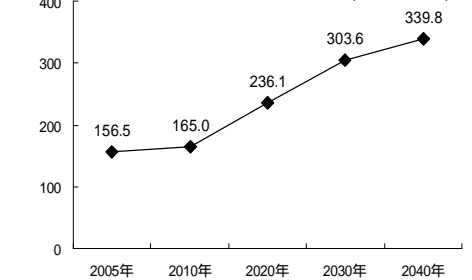
【2040年までの高齢化に係る変化の度合い (図表1-8)】



(全県: 2005年65歳以上人口を100とした場合、2040年65歳以上人口153、高齢化38.1%)

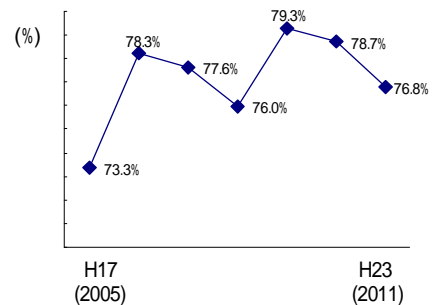
(兵庫県ビジョン課推計)

【本県要介護者数推計(図表1-9)】



要介護者推計は5歳階層別人口の推計に現在の各年齢層での要介護出現率を乗じて算出。(兵庫県ビジョン課推計)

【老後に不安を感じる人の割合(図表1-10)】

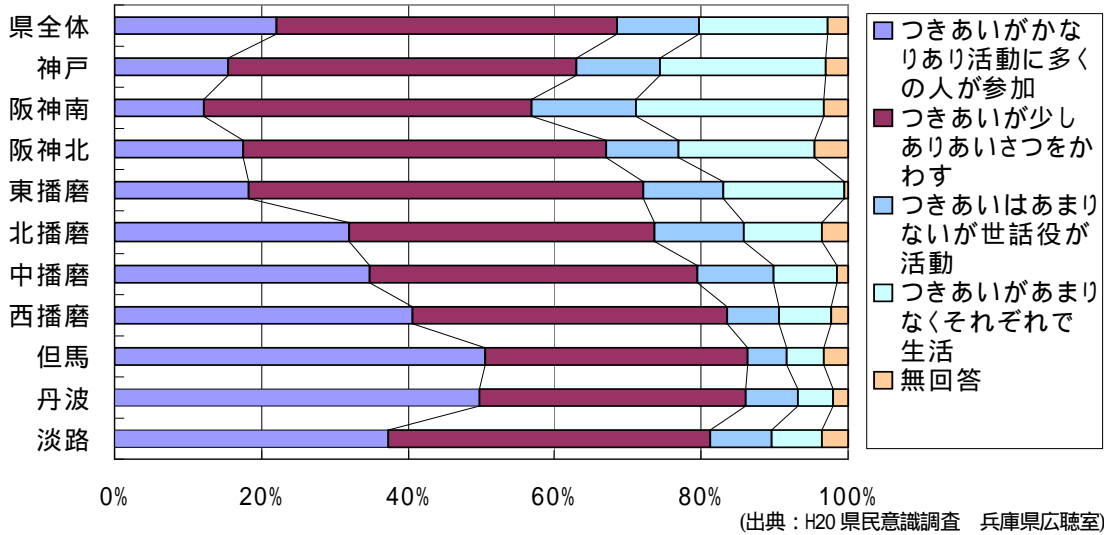


(出典：「美しい兵庫指標」県民意識調査)

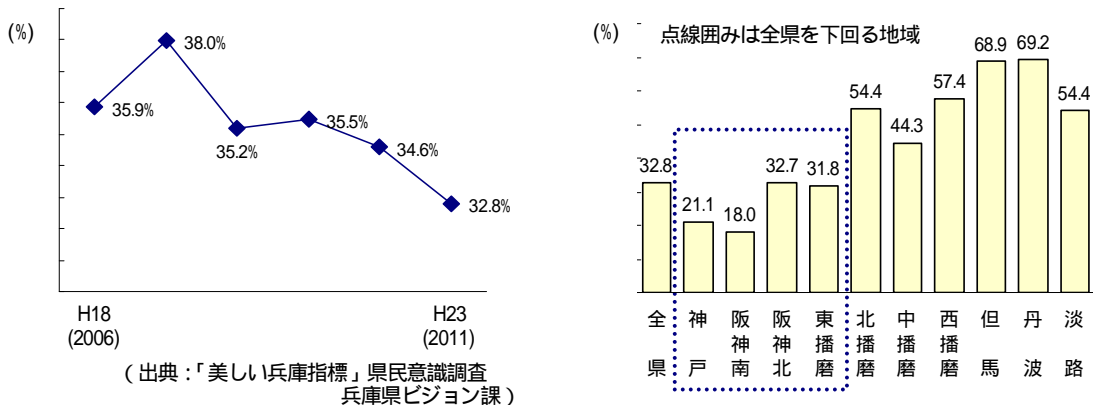
(2)地域の支え合いによる安心な生活基盤の構築

- ・都市部では、あいさつや行事の参加も含めて、地域でのつきあいが少ない傾向にあり、異なる世代とのつきあいも低い傾向。
- ・世帯の単身化が進む中、地域の中で他者との接点を持たない社会的な孤立が一層顕在化し、孤立死や児童虐待などが増加していく可能性がある。

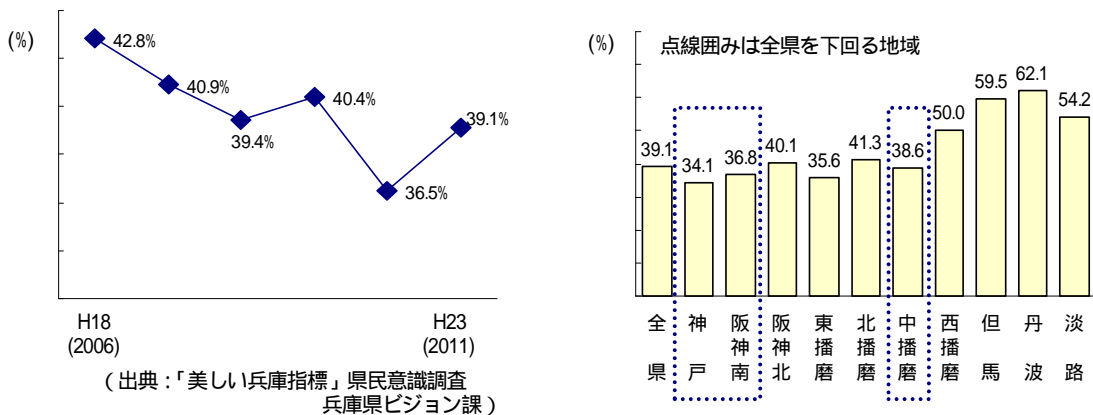
【本県:地域でのつきあいの状況(平成20年) (図表1-11)】



【地域の行事によく参加する人の割合(%) 左:全県推移 右:地域別 平成23年 (図表1-12)】



【地域の異なる世代の人とつきあいがある人の割合(%) 左:全県推移 右:地域別 平成23年 (図表1-13)】



県民の意見

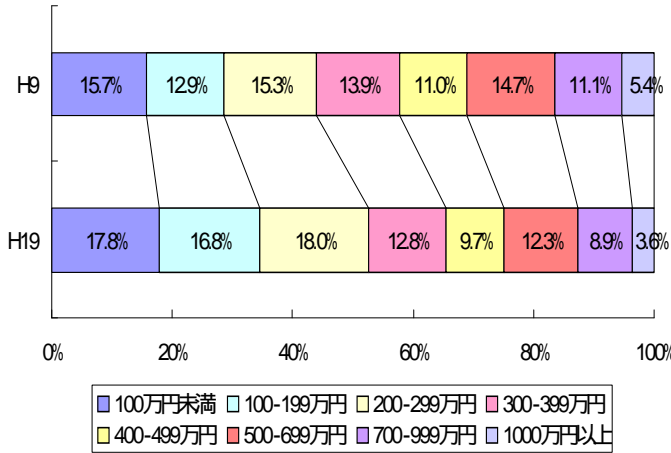
・マンションではエレベーターでしか顔を合わせる機会がなく、両隣ぐらいしか知り合いがないという人が多い。孤立死を防ぐセーフティネットとしてのコミュニティが機能していない。今後、一層孤立死が増えるのではと懸念している。(県内大規模団地自治会理事長)

(3) 低所得者層の増加と求められる雇用環境の整備

低所得者層の増加

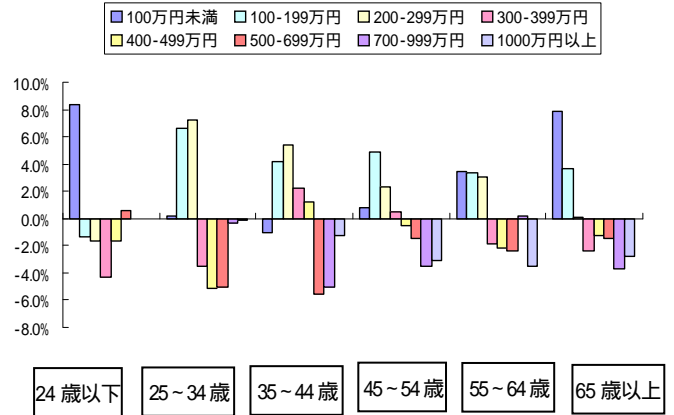
- ・300万円未満の所得階層が増加傾向にあり、また、年齢が高くなれば所得が増えるこれまでの構造が崩れつつある。

【本県所得階層別の有業者比率の推移(図表1-14)】



【年齢階層別、所得分布の比較(H9とH19)(図表1-15)】

年齢階層別にも、所得の低い階層の増加、所得の高い階層の減少がみられる

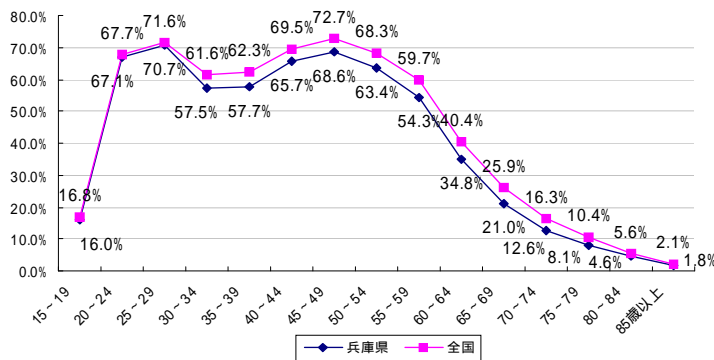


〔出典：就業構造基本調査。15歳以上で、正社員、パート・アルバイト、派遣・契約社員、嘱託等の種類を問わず何らかの仕事に従事している者を対象（5年ごとに実施）〕

育児・介護のために離職する女性

- ・本県の女性の労働力率は、全国比較で3.2ポイント低くなっている。特に労働力率が低下する20歳代後半から40歳代前半において都市部で低い傾向にある。
- ・離職理由は育児が最も高く、また、40歳代後半からの離職理由では、介護・看護の割合が高くなっており、就業継続のための環境づくりが重要。

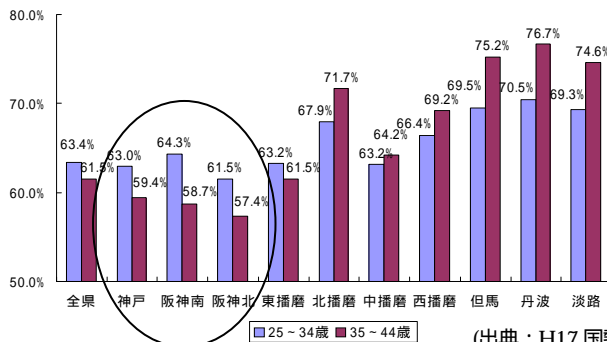
【女性の年代別労働力率(図表1-16)】



区分	総数	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳
全国	47.8	66.2	65.7	70.4	50.9
兵庫県	44.6	63.4	61.5	65.9	45.2
全国との差	3.2	2.8	4.2	4.5	5.7

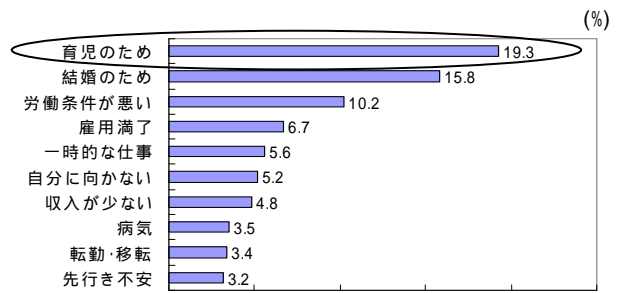
(出典：H17 国勢調査)

【地域別・年代別女性労働力率(図表1-17)】



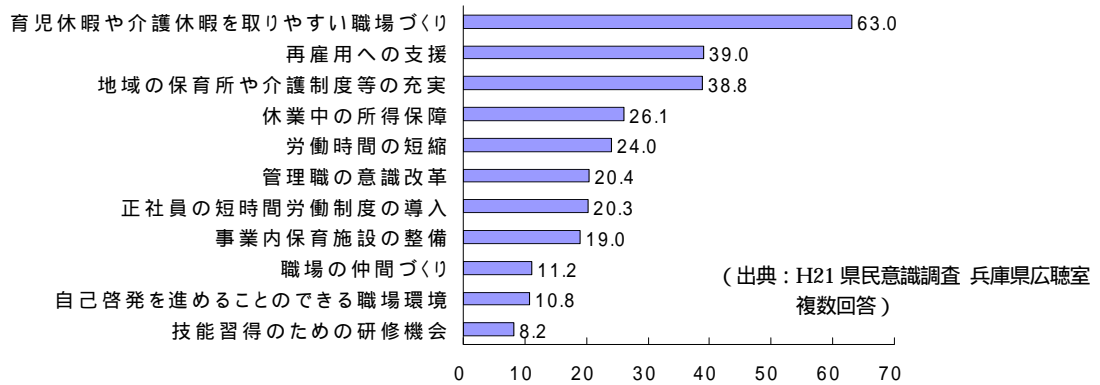
(出典：H17 国勢調査)

【本県：女性の離職理由 25～34歳(図表1-18)】



(出典：H19 就業構造基本調査)

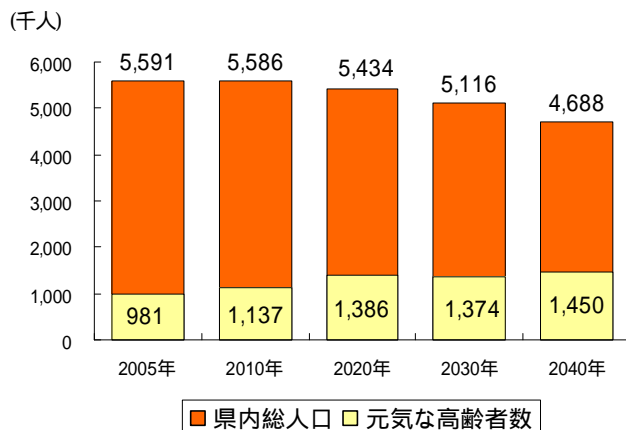
【しごとと生活の両立を推進するために特に必要なもの(図表 1-19)】 (%)



高齢者のいきがいしごとの確保と就業者の高齢化への対応

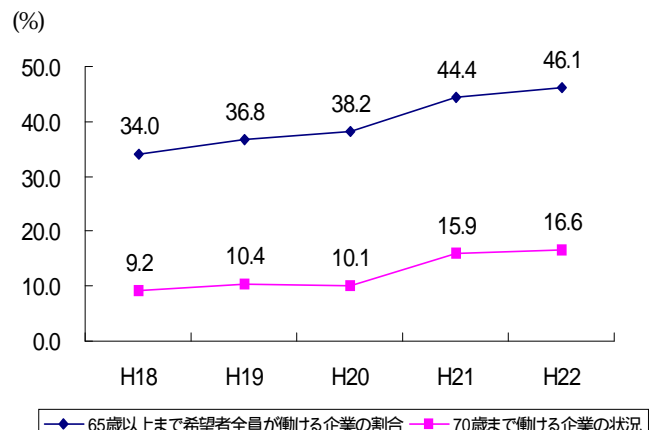
- ・元気な高齢者が増加していく中で、現在 65 歳以上の雇用確保を措置している企業は増加しているが 5 割弱に留まる。
- ・高齢者の就業理由は「経済的な理由」が最も高く、年齢が高くなると「いきがい・社会参加」の割合が増加する傾向にあり、就業、いきがいしごとの場づくりが重要。
- ・労働力人口の高齢化が進むことから、一人ひとりの実情に応じた適切な健康管理や就業形態の多様化が重要。

【本県:元気な高齢者数推計(図表 1-20)】



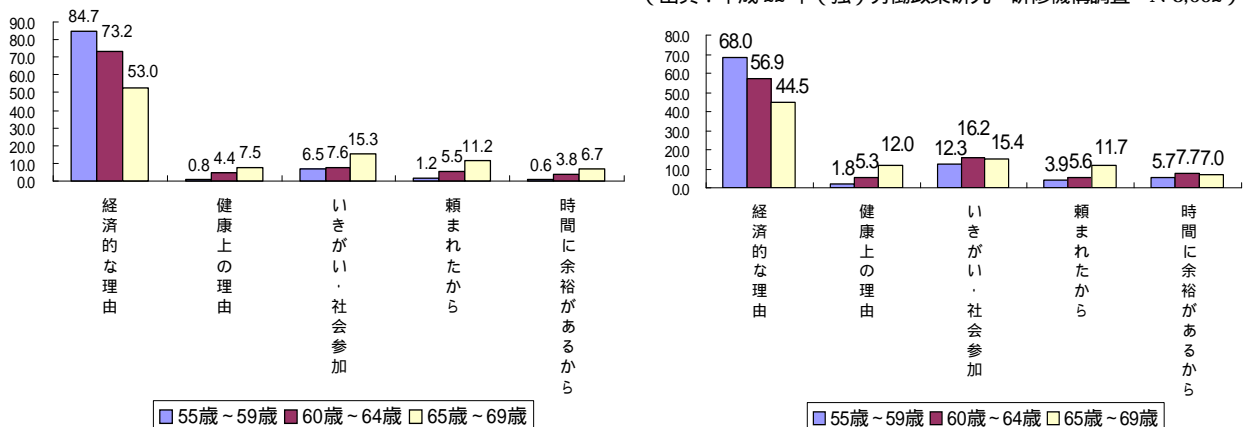
元気な高齢者数：推計人口 - 要介護者推計（5 歳階層別人口の推計に現在の各年齢層での要介護出現率を乗じて算出）
(出典：兵庫県ビジョン課推計)

【本県:65 歳以上の高年齢者雇用確保措置(図表 1-21)】



定年の廃止、65 歳以上定年、希望者全員の継続雇用制度を導入している企業の割合 (H19 まで 51 人以上の企業、H20 以降は 31 人以上の企業を対象)
(出典：兵庫労働局資料)

【全国:主な就業理由 右:男性 左:女性 (%) (図表 1-22)】

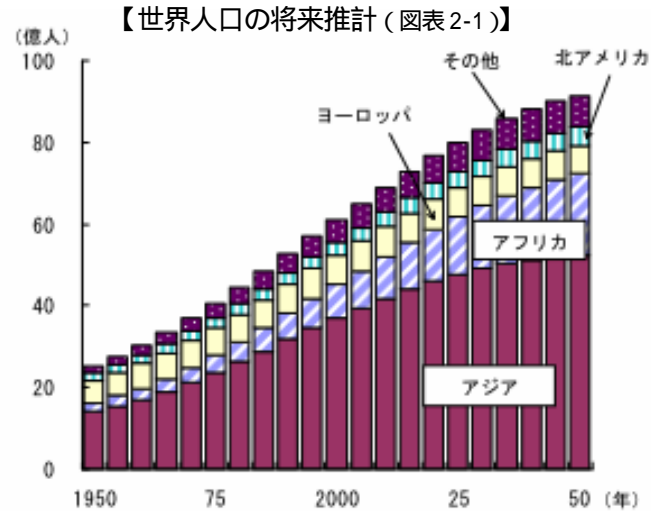


(出典：平成 22 年 (独) 労働政策研究・研修機構調査 N-3,602)

【2 「世界に開かれた兵庫」を考えるうえでの課題】

【(1) 世界や地域でさまざまな結びつきが求められる経済・産業】

- ・世界の人口は全体では今後も引き続き増加する。アジアは2050年には伸び率は鈍化するものの、2005年の約39億人から2050年には約52億人に増加する。
- ・主要国経済の潜在成長率(2010年代、2020年代)をみると、アジア主要国では、成長率の鈍化は見られるものの、他の主要国に比べて高い成長率が続く見通しとなっており、こうしたアジアの動きも視野に入れて、兵庫経済を考えていく必要がある。
- ・特に、規格化されたものづくりではなく、独自性の高いオンリーワンのモノやサービスを提供し、世界の都市・地域に負けない活力を生み出していくことが求められる。



【主要国の潜在成長率(図表2-2)】

	実質 GDP 成長率 2000年代	潜在成長率 2010年代	潜在成長率 2020年代	00~10年代 変化(%ポイント)	10~20年代 変化(%ポイント)
アジア					
中国	10.0	9.1	7.9	0.8	1.2
インド	7.2	6.9	5.7	0.3	1.3
インドネシア	5.2	5.7	5.0	0.5	0.7
フィリピン	5.0	5.0	5.0	0.0	0.0
タイ	4.8	4.9	4.6	0.1	0.3
シンガポール	5.5	4.6	2.7	0.9	1.9
韓国	4.4	3.9	2.8	0.5	1.1
日本	1.4	0.7	0.4	0.7	0.3
北米・中南米					
ブラジル	3.7	3.4	2.5	0.3	0.8
カナダ	2.7	2.1	1.2	0.5	0.9
アメリカ	2.4	2.2	1.6	0.2	0.6
ヨーロッパ					
英国	2.5	1.9	1.3	0.6	0.6
ドイツ	1.4	0.9	0.1	0.5	0.9
フランス	1.9	1.1	0.7	0.8	0.4
その他地域					
南アフリカ	4.1	3.0	3.1	1.1	0.1
オーストラリア	3.3	2.0	0.9	1.3	1.1

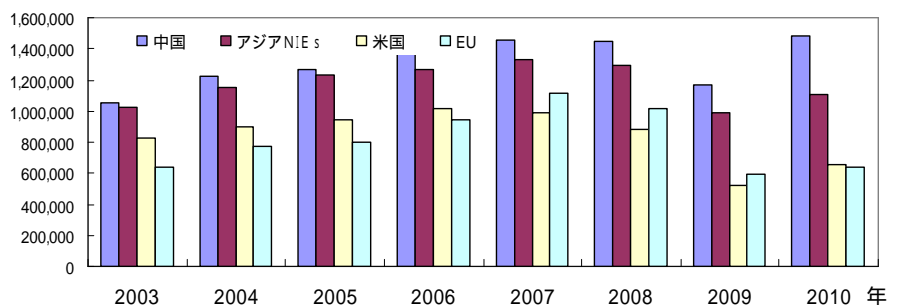
トレンドを延長した試算。2000年代については00~08年における実質 GDP 成長率の年平均値。

(出典：内閣府「世界経済の潮流2010年」)

アジアを中心とした海外とのさらなる結びつきが求められる兵庫の経済

- ・中国や東南アジアへの輸出額は年々増加。今後はアジアの内需とともに成長するという視点をもつことが不可欠となる。

(百万円) 【輸出額(国・地域別)の推移(兵庫県)(図表2-3)】



(出典：財務省「貿易統計」)

- ・ 製造業を中心に企業の海外進出は増加を続け、製造業全体において、海外現地生産を行う企業数の割合も全体の2/3を超え、海外現地生産比率も年々増加している。
- ・ 主要企業の海外進出により、これらの企業をサポートしてきた中小企業との関係の変化や産業、雇用の空洞化も危惧される中で、企業の規模にかかわらず、海外に直結した事業展開が求められている。

製造業からサービス業へ移行する産業構造

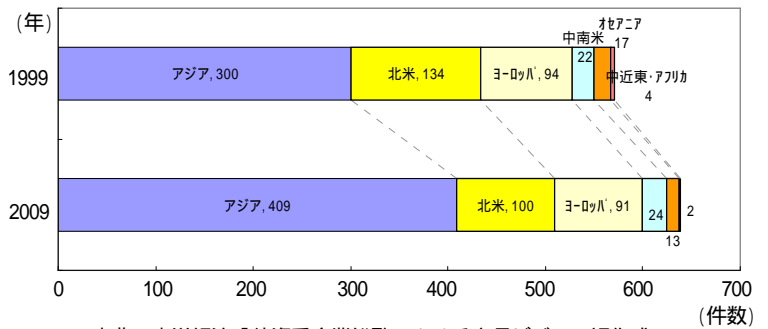
- ・ 兵庫県は第2次産業、特に製造業の構成比が高い「ものづくり」に強みを持っていたが、近年その比率は低下傾向にあり、サービス業など第3次産業の比率が大きく伸びている。
- ・ 少子高齢化や社会の成熟化に対応した社会貢献型サービス業の成長が見込まれる中、サービス業の生産性向上が求められる。

成長の質が問われる時代へ

- ・ 県民1人当たりの実質GDPは就業率等が上昇したと仮定しても2025年頃に成長が鈍化し、特に但馬、丹波、淡路地域ではマイナス成長となり、地域間格差が拡大すると見込まれる。
- ・ 地域固有の資源や一人ひとりの個性を生かした質の高い経済成長が求められる。

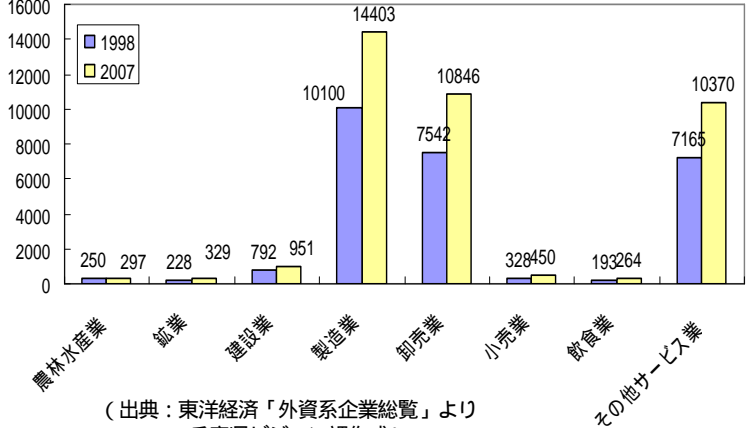
(出典：兵庫県「市町民経済計算」、兵庫県将来推計人口等を基に兵庫県ビジョン課作成)

【兵庫県内企業の海外進出状況(図表2-4)】



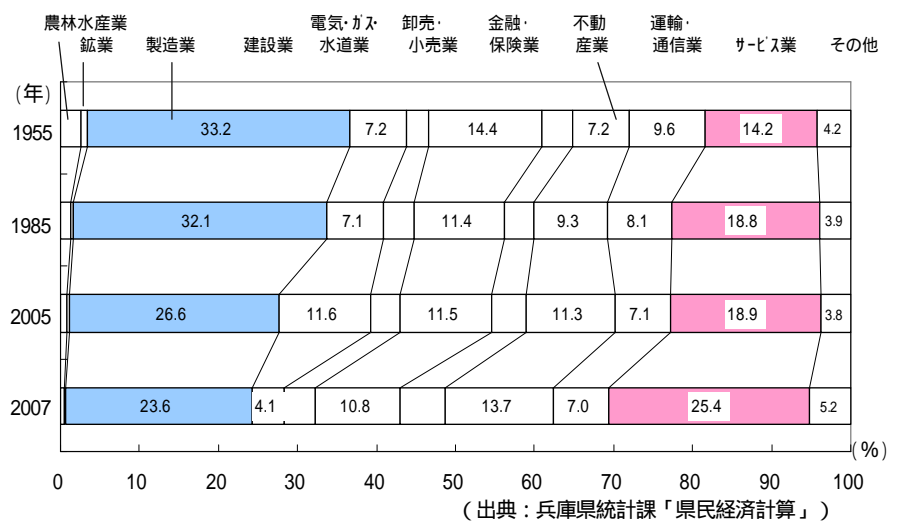
(出典：東洋経済「外資系企業総覧」より兵庫県ビジョン課作成)

【産業別海外進出企業数(全国)(図表2-5)】



(出典：東洋経済「外資系企業総覧」より兵庫県ビジョン課作成)

【総生産の産業別シェアの推移(図表2-6)】

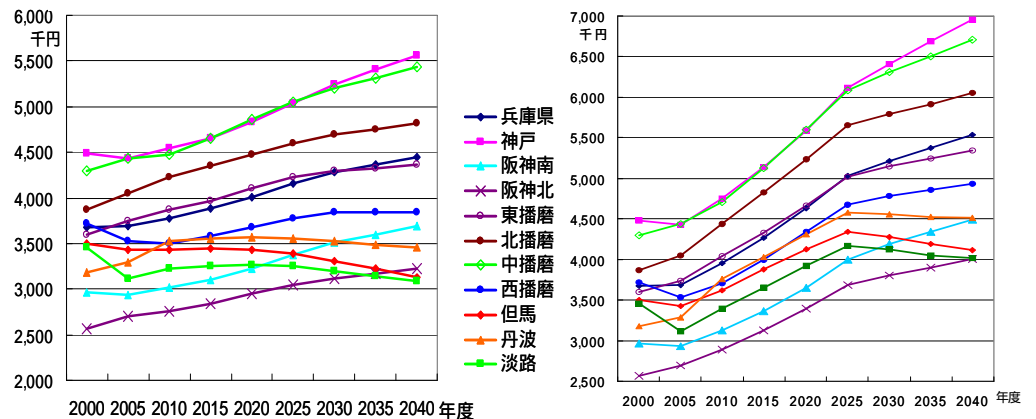


(出典：兵庫県統計課「県民経済計算」)

【各地域の一人あたり実質GDPの推移(2010年度以降は推計)(図表2-7)】

(過去トレンド延長型モデル)

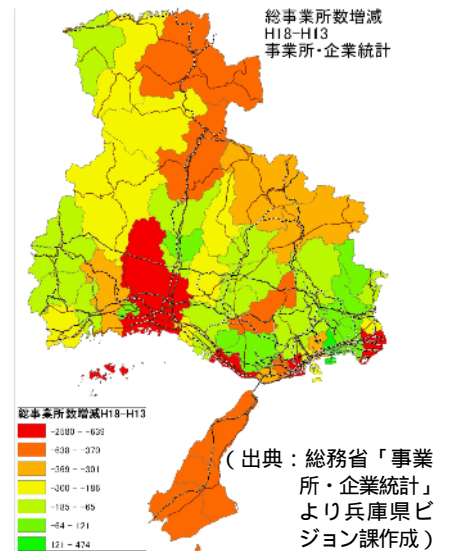
(就業率等上昇型モデル)



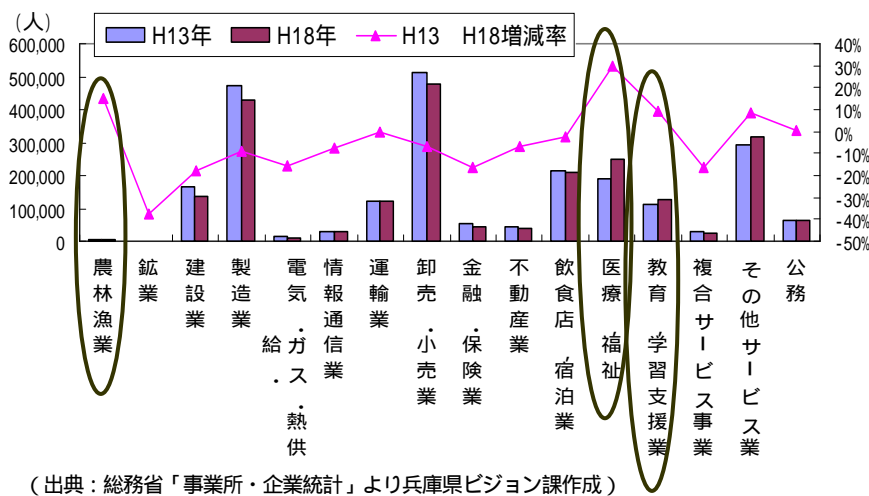
地域間で偏りながら減少する事業所・従業者数

- 平成13年と18年の事業所数をみると、中播磨、阪神南（尼崎）但馬、淡路での減少が大きい。このうち製造業以上にサービス業の減少率が大きいのは尼崎市、姫路市、播磨町となっている。
- 県内従業者数は、平成18年には13年比で4万4千人（1.9%）減少しているが、医療・福祉、教育・学習支援業等の分野で増加が見られる。
- 地域別にみると都市部や都市郊外・主要交通の結節点では増加傾向が見られるが、但馬や播磨地域では減少が目立つ。

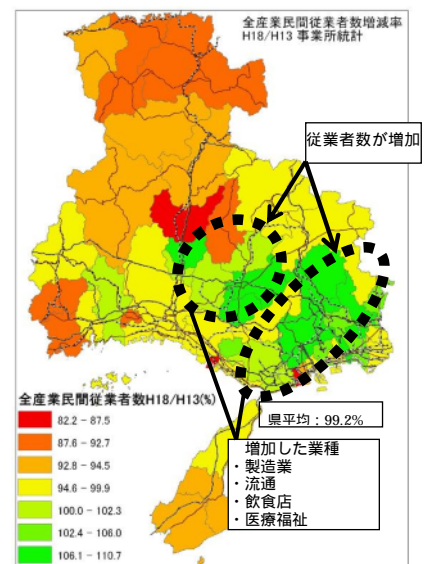
【県内事業所数の増減(図表2-8)】



【兵庫県・業種別従業者数の推移(図表2-10)】



【全産業民間従業者数の増減(図表2-9)】

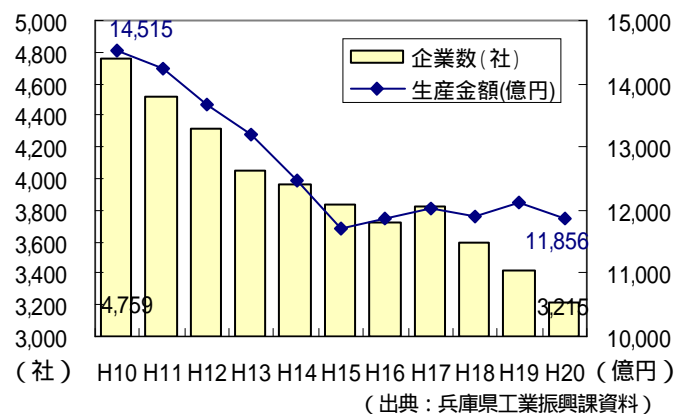


- 県内には食料、繊維、化学・雑貨など45の地場産業がある。生産額は平成15年以降ほぼ横ばいであるが、企業数は減少傾向にあり、人材育成や高付加価値化などに取り組んでいく必要がある。

充実が進む県内科学技術基盤のさらなる活用

- 県内にはSpring-8や神戸医療産業都市という高度な科学技術基盤を有しており、X線自由電子レーザー施設SACLA、京速コンピュータ「京」の供用開始により、世界最先端の研究・技術開発が可能となる。
- これらの科学技術基盤を中心に、産業利用を促進するとともに、さらなる新技術の創出や研究開発型企業の集積が求められる。

【地場産業企業数・生産額の推移(兵庫県)(図表2-11)】



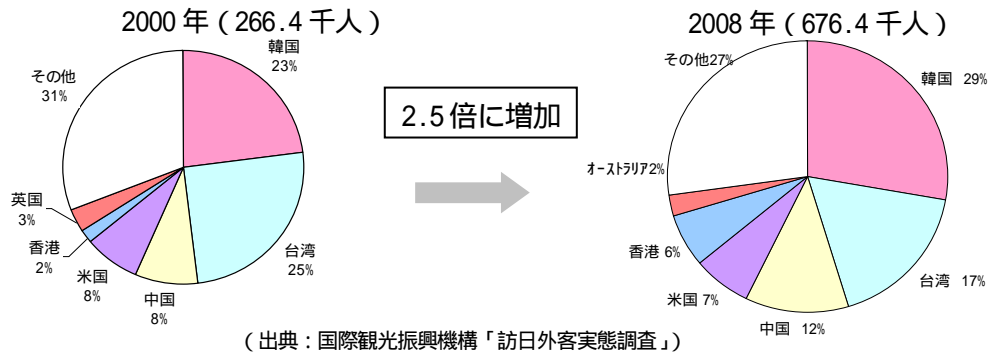
京速コンピュータ「京」施設、高度計算科学研究支援センター外観

(2) 拡大・深化が求められる多文化との交流・共生

国内外で激化する誘客競争

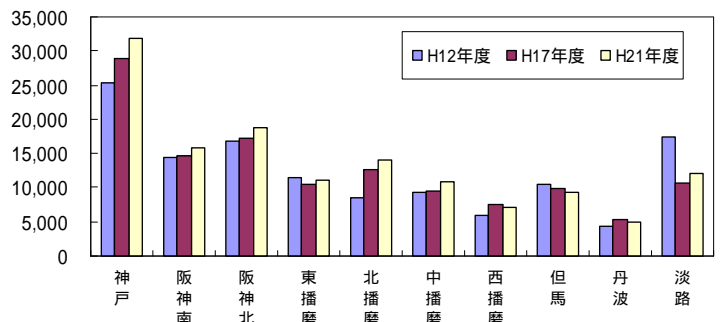
- 世界規模での人の交流が一層活発化することが予測される中、県内の観光資源を生かした外国人旅行者の誘客拡大をはじめ、交流人口の拡大につながる国際会議の誘致にも戦略的に取り組んでいく必要がある。

【兵庫県内への外国人旅行者数の国・地域別内訳の推移(図表 2-12)】



- 2009年(平成21年)度県内入込数は1億3,600万人と過去最高を記録。
- 観光・誘客産業は宿泊業、旅客運送業等に加え、小売、物産など裾野の広い産業であり、観光のほか、商用や国際会議、教育など目的も多様。
- 来県者に対し行政・民間団体・県民等が幅広く連携して地域の魅力づくりやテーマ設定に取り組む必要がある。

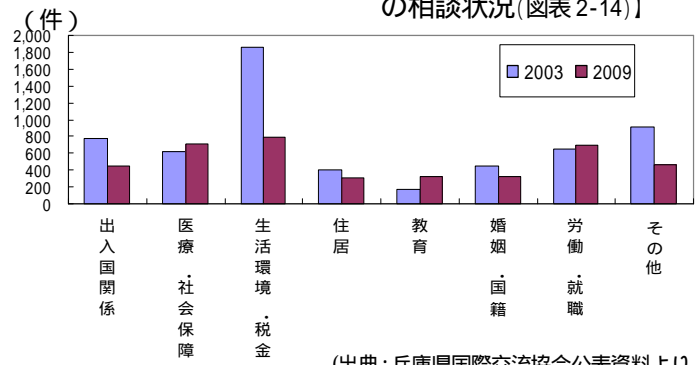
(千人) 【県内地域別入込数の推移(図表 2-13)】



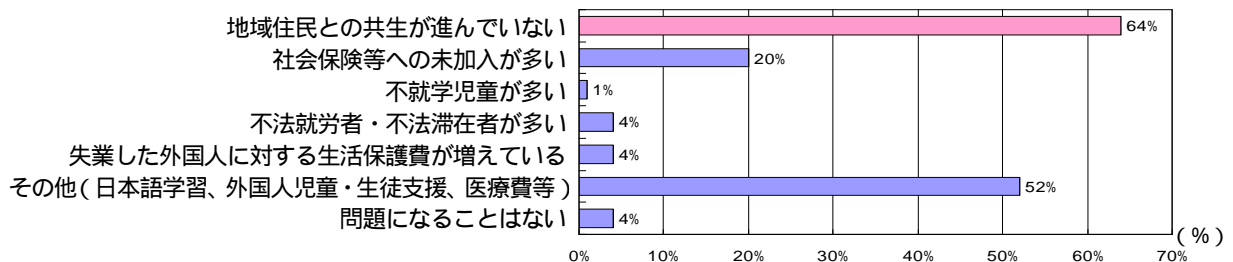
県内に広がる外国人県民の「居住」

- 外国人登録者数は近年、約10万人と横ばい状況にあるが、その国籍は多様化し、特定の地域で特定の出身国の外国人県民が増加する傾向が見られる。
- 文化の違いを乗り越え、ともに暮らしやすい地域づくりに取り組み、兵庫が海外の人々にとっても住みやすい、魅力ある地域となることが求められる。

【兵庫県外国人県民インフォメーションセンターの相談状況(図表 2-14)】



【自治体を実施する外国人の生活・就労支援で問題となっていること(都道府県回答)(図表 2-15)】



(3) 兵庫を支える人材の育成・集積

・世界的な人材獲得競争が始まっている中、豊かな創造力を持ち世界で活躍できる人づくりや国内外から志をもった人材、創造的・知的な人材が集積するしかけづくりが必要になる。

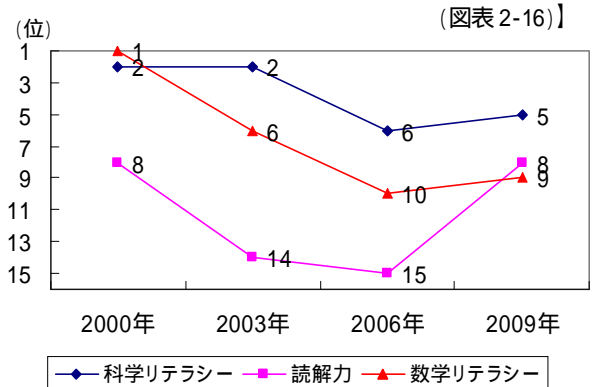
主体的に課題を見だし、解決できる人材の必要性

・15歳児の学習到達度の国際比較は2009年(平成21年)には若干改善したものの、日本の順位は低下傾向。自分で考え、行動できる能力を身につけることができる教育が求められている。

(出典：文部科学省 PISA (OECD 生徒の学習到達度調査) より作成)

PISA 調査では、義務教育修了段階の15歳児の持つ知識や技能を実生活の様々な場面でどの程度活用できるかどうかを評価。

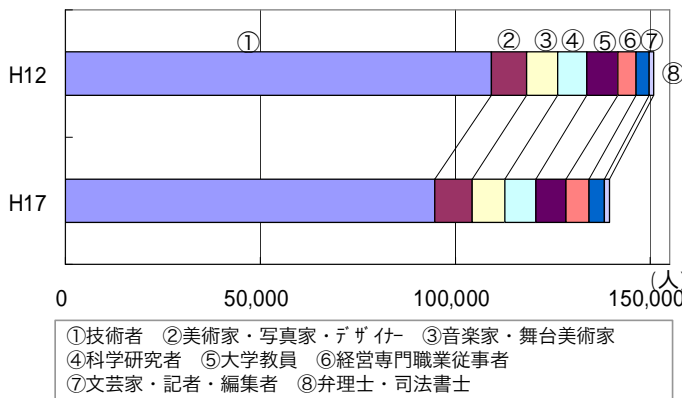
【OECD の学習到達度調査結果(日本)】



進まない高度人材の集積

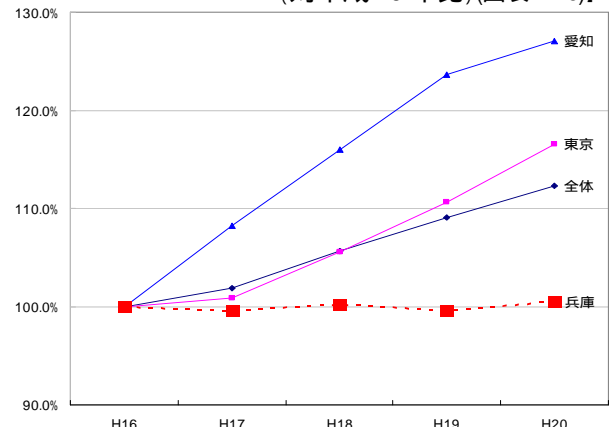
- ・県内では、技術者など高度人材の減少が見られることから、知識社会に対応して地域づくりや産業などを牽引できる人材を呼び込み、定着させるしくみが必要となる。
- ・近年、県内への高度外国人人材の集積は横ばい状態が続いている。外資系企業の進出は東京に偏る傾向があり、「選ばれる地域」となるため、地域の魅力を一層創出していくことが必要になる。

【県内の高度な知的人材の数 (図表 2-17)】



(出典：国勢調査)

【高度外国人人材の兵庫県と他府県との比較 (対平成16年比) (図表 2-18)】



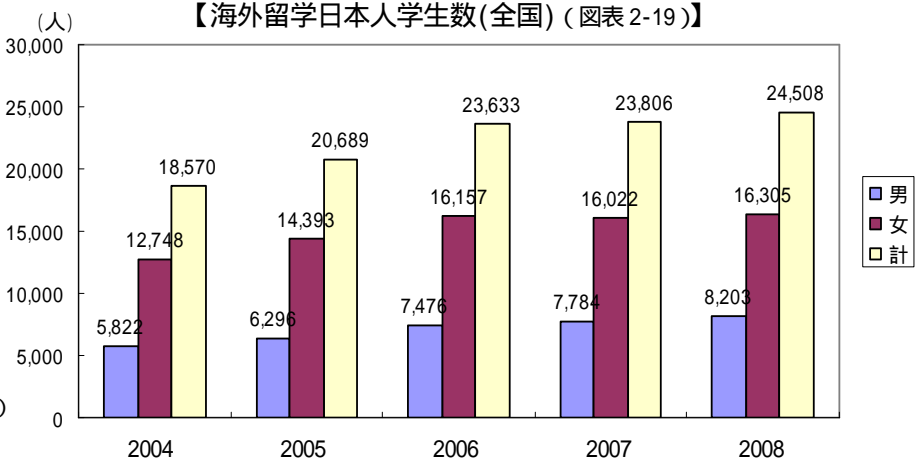
人文知識・国際業務、技術・投資・経営・企業内転勤、教育、技能、教授・研究の在留資格者を高度外国人人材とした。
(出典：出入国管理統計)

弱まる若者の海外志向

・日本人学生の海外留学数は近年微増にとどまり期間も短期化。若者の内向き志向や経済事情、就職活動の早期化などが原因と推測される。

(出典：日本学生支援機構ホームページより兵庫県ビジョン課作成)

【海外留学日本人学生数(全国) (図表 2-19)】



【3 「持続する地域構造」を考えるうえでの課題】

【(1) 衰退が進む多自然地域の集落】

- ・人口が疎になるペースが速い多自然地域の集落では、空き家の増加と荒廃、耕作放棄地の拡大、獣害の拡大などが進行し、生活の安心感が低下、生活機能の維持が難しくなる地域が発生している。
- ・世代間バランス係数（G B I）が低いところに、小規模集落が多数分布する傾向。

*** 小規模集落**

65歳以上人口比率40%以上かつ50世帯以下の集落（まちの中心部や鉄道駅周辺集落などを除く。）

*** G B I（世代間バランス係数）**

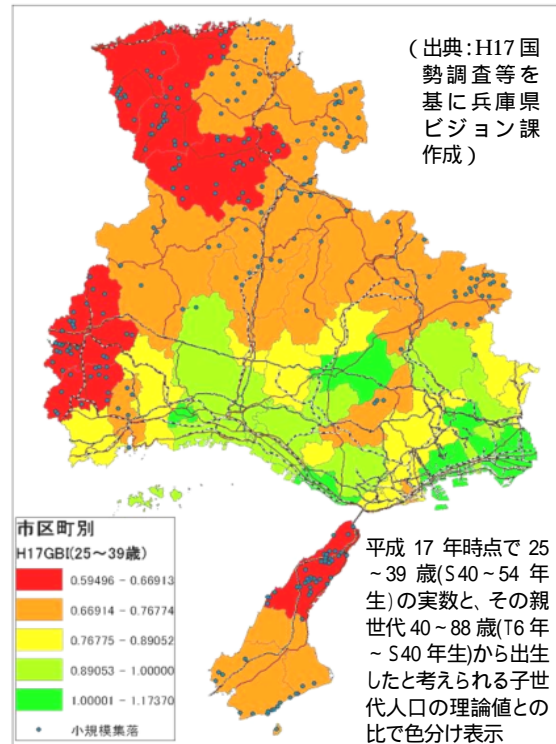
ある地域における親世代人口と子世代人口のバランスを示す指標。地域での人口移動がないものと仮定したときに、親世代の人口構成から決まる子世代の人口の期待値と実際の子世代の人口との比率。

（出典）藤井多希子「東京圏外の世代間関係と世代交代」

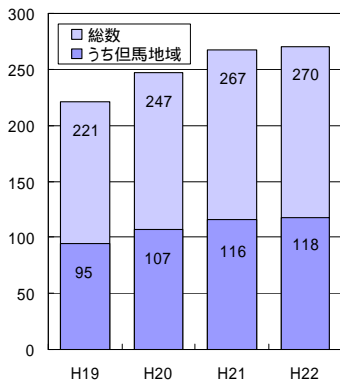
G B Iが高い市区町は、神戸阪神間及び中播磨地域に見られる。逆に低い市町は、県西部、北部、淡路地域に分布。（養父市、淡路市、上郡町、佐用町、香美町、新温泉町）

県内の小規模集落は、G B Iがおおむね0.8より低い市町で見られることから、子世代の流出が多く世代間バランスが崩れたところと出現すると考えられる。

【県内の小規模集落と世代間バランス係数(図表3-1)】



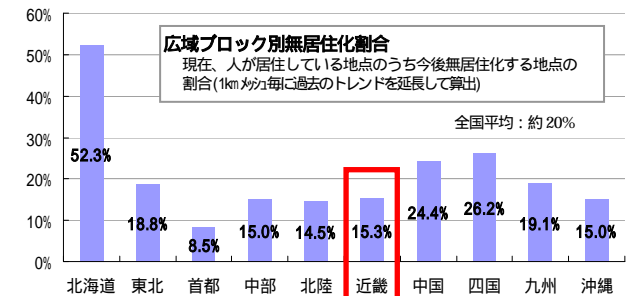
【県内の小規模集落数の推移(図表3-2)】



（出典：兵庫県ビジョン課）

- ・2050年(平成62年)における近畿地方の無居住化割合は、全国平均より低いものの、3大都市圏内(首都、中部、近畿)では最も高い。

【2050年における広域ブロック別無居住化割合(図表3-3)】

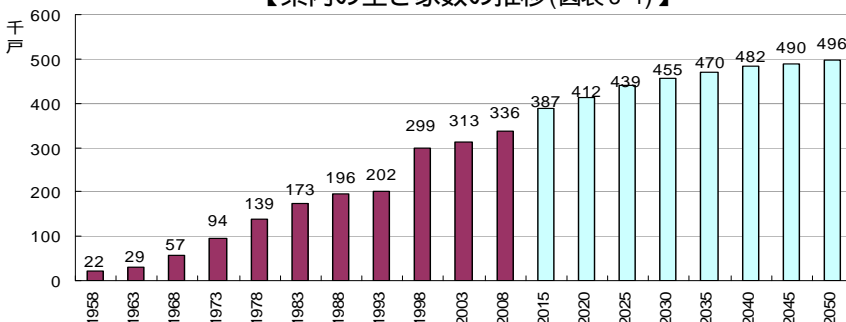


（出典：国土審議会政策部会第3回長期展望委員会）

荒廃する空き家の増加

- ・空き家が全県で増加しており、人口減少が進む集落においても増加。放置され荒廃する空き家が増えると、集落景観の悪化、治安低下の懸念など、住民生活に負の影響が出る恐れがある。

【県内の空き家数の推移(図表3-4)】



倒壊した空き家(豊岡市)

（出典：人口減少社会の展望研究報告書（兵庫県人口減少社会の展望研究プロジェクトチーム H17.3）を基に兵庫県ビジョン課で再推計）

放棄される耕作地や人工林の拡大

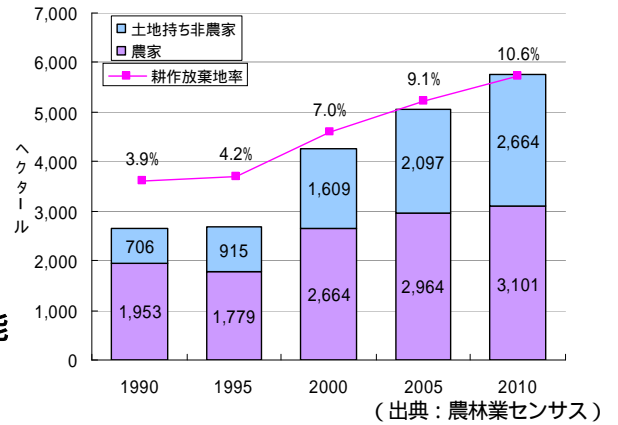
- ・過疎化、高齢化により農林業の担い手が減少、耕作放棄地の拡大、人工林の荒廃が進んでおり、集落周辺の空間の劣化だけでなく、獣害の拡大や土砂災害などの恐れが拡大している。

耕作放棄地：耕地のうち、過去1年以上作付けせず、しかもこの数年の間再び作付けする考えのない土地

集落や地域内でまかないきれない生活サービス機能

- ・多自然地域では、医療機関、食料小売店、郵便局・銀行等の生活関連施設が徒歩圏内にない住居の割合が高い。特に、食料小売店が付近に存在しない小規模集落が多い。

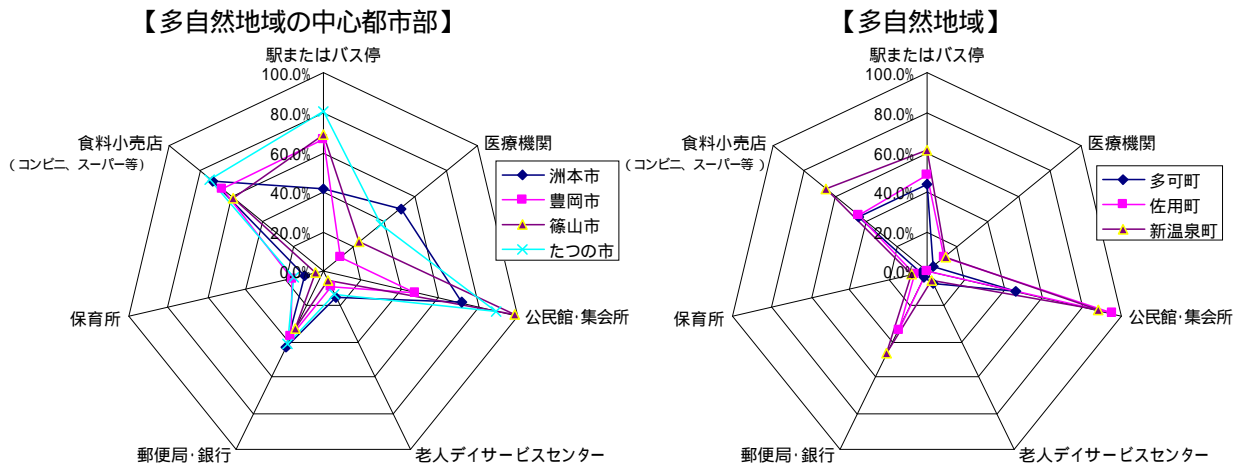
【県内の耕作放棄地面積の推移(図表 3-5)】



県民の意見

- 田畑や山林が管理できなくなって、自然のままの状態になりつつある(養父市日畑)
- 山の値打ち、木の値打ちが下がったため、自分の山に関心のない人が多い(丹波市上小倉)

【生活関連施設から500m未満に位置する住居の割合(図表 3-6)】



(2) 疎住化が進む地方都市

- ・ほとんどの地方都市では居住域が拡大する一方で、人口は減少し続けていることが特徴。
- ・今後さらなる人口減少により、道路、下水などの社会インフラや福祉サービスなどの維持コストが増大すると考えられる。また、これまで人口が増加していた都市であっても、今後迎える人口減少社会において、同様の課題を抱えることになる。

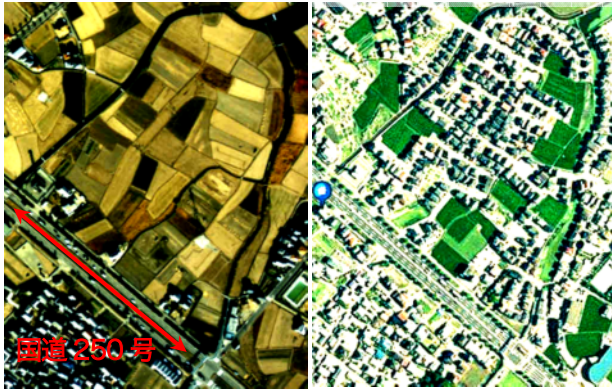
多自然地域の中心都市周辺で拡大し続ける市街化

- ・多自然地域の全域で転出超過により人口が減少傾向にある。市町内での転居も多く、近隣地区間で人口の取り合いが生じている。
- ・多自然地域においては、道路アクセスが良く、大型小売店舗が立地するなど買い物に便利で、手頃な新しい住宅が供給される地域に人口が集まる傾向にある。

都市近郊での幹線道路などの沿道近辺への都市機能・居住機能の拡散

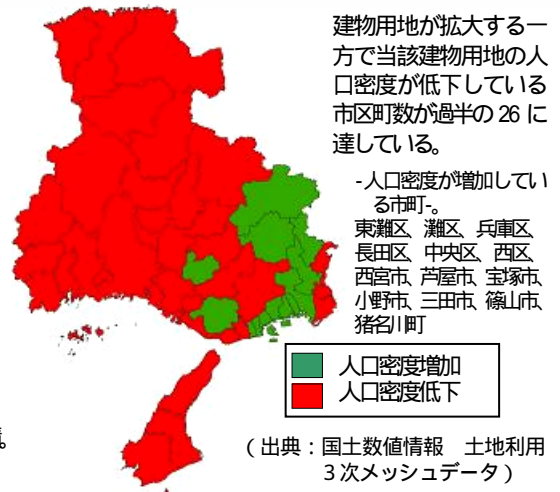
- ・都市近郊の交通量の多い沿道の農地がミニ開発で住宅地になり、都市機能、居住機能が拡散する傾向にある。まちの拡散・低密度化は、人口減少・偏在下にあっては、生活の質を劣化させるだけでなく、公共負担を高め、深刻な事態を迎えることが懸念される。

【加古川市南部における幹線道路沿いの開発(図表 3-7)】

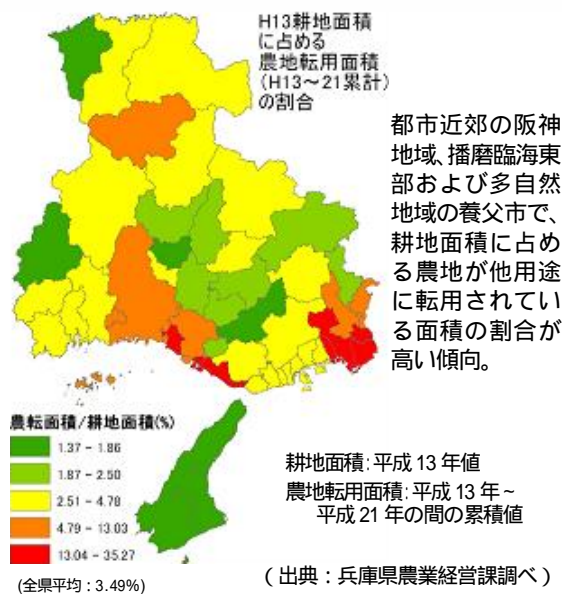


左：1985年 右：近況（加古川市加古川町稲屋）
斜めに走っているのは国道250号で沿道には多くの飲食店や商業施設が集積

【建物用地と人口密度の変化 97-06(図表 3-8)】



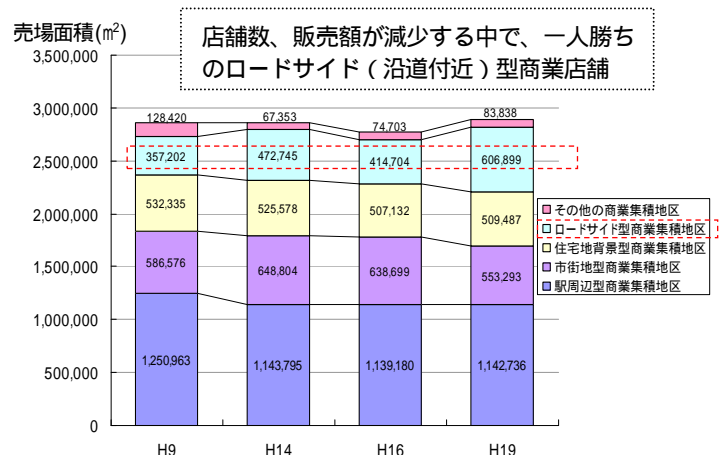
【耕地面積に占める農地転用面積の割合(図表 3-9)】



中心市街地の商店街の衰退

- ・郊外や幹線道路などの沿道付近（ロードサイド）への大型小売店舗の立地や、経営者の高齢化などの影響により、衰退する中心市街地も増加傾向。

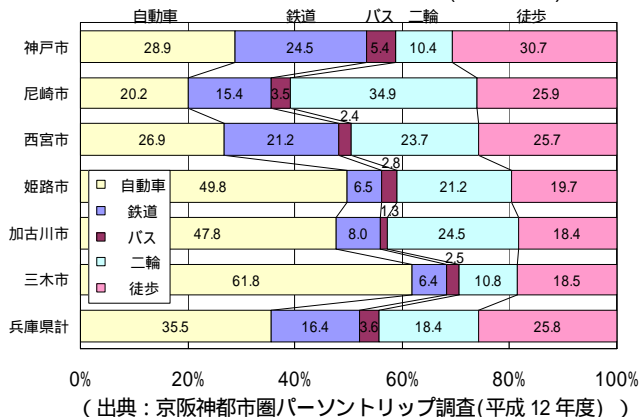
【商業集積地区別の売場面積の推移(図表 3-10)】



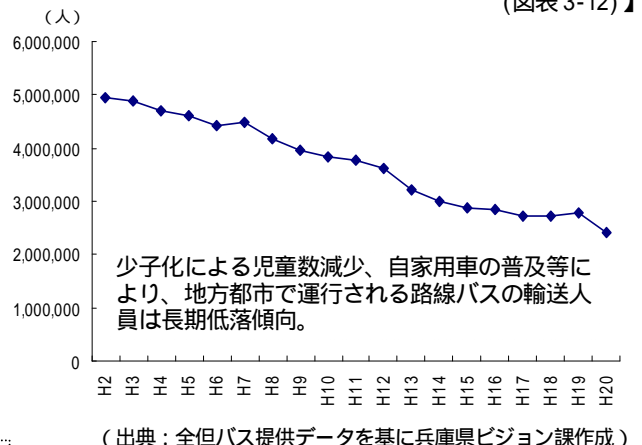
公共交通の衰退による移動性の低下

- ・地方都市では自動車利用を前提とした都市構造となっており、人口減少による利用者の減少と相まって公共交通の利用者数は減少。

【代表交通別トリップ数の構成比(発生集中量)(図表 3-11)】



【地方における路線バス輸送人員の推移(全但バス)(図表 3-12)】



播磨地域は神戸、阪神地域と比較すると、交通の自動車分担率が高い

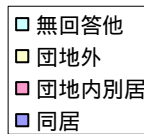
(3) 世代交代が停滞する郊外のニュータウン

- 高度成長期以降に大規模開発されたニュータウンでは、最初に入居した世代が一斉に高齢化するとともに、子世代の流出により高齢化が急激に進んでいることが特徴。空き家の発生による空間の劣化、地域のにぎわい・活力の低下が懸念される。

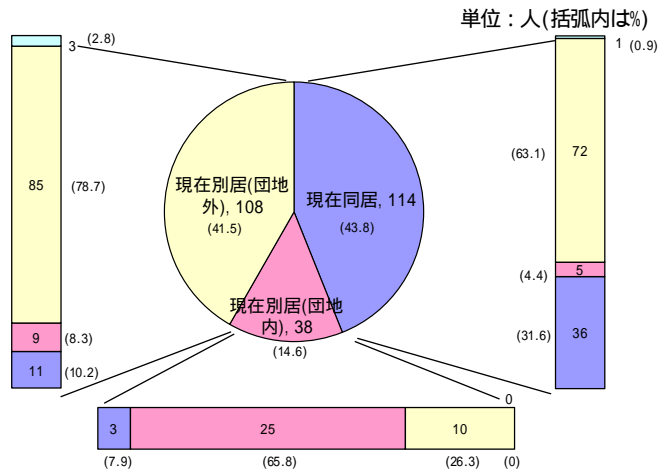
子世代の流出と顕著に進む地域の高齢化

- ニュータウンで生まれ育った世代は進学を機に流出し、そのまま就職、結婚して戻らないケースが見られ、親世代から子世代への世代交代が進みにくい。

右グラフでは、現在団地内で別居する人を除き、団地外での居住を希望する第二世代が多く、将来的に団地からの流出が続くことを示唆している。



【大和団地（川西市）の第二世代の将来の居住地希望（図表 3-13）】

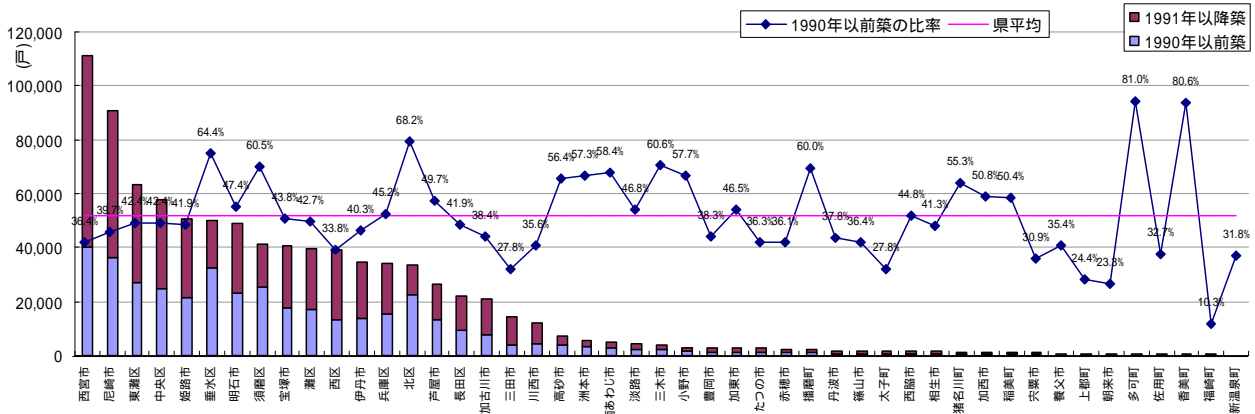


(出典：阪神北地域ニュータウン再生研究会報告書(2006年))

更新時期を迎える住宅ストック

- 県内の鉄筋・鉄骨コンクリート造の住宅戸数の約半数（44.6%）が、2040年までに耐用年数（約50年）を超え、更新を迫られる。更新時期を迎える住宅数が多くかつ比率が高いのは、郊外ニュータウンが立地する神戸市須磨区、垂水区、北区となっている。

【2040年までに耐用年数を超える鉄筋・鉄骨コンクリート造住宅戸数、比率(図表 3-14)】



(出典：総務省 H20 住宅土地統計)

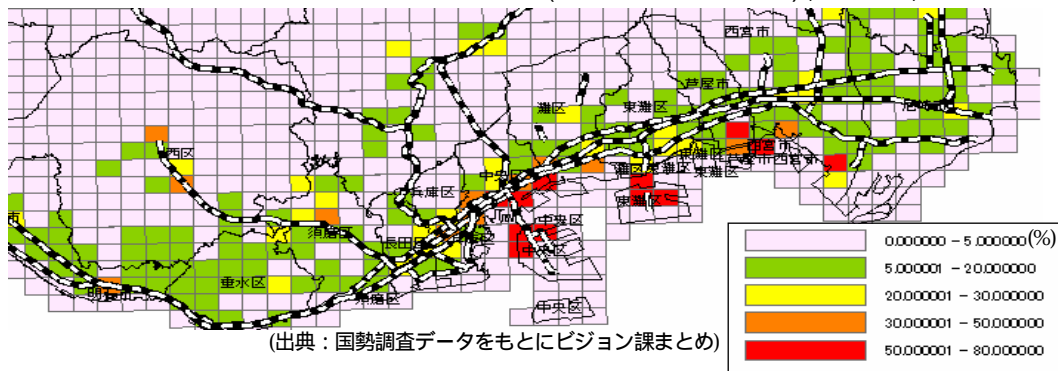
(4) 人口集中が当面継続する瀬戸内臨海部の都市

- 県内で人口減少が進展する中でも、都市部への人口集中により、主に、神戸、阪神間、播磨臨海部では、当面、人口が増加するものと考えられる。

マンションの垂直型コミュニティと地域の水平型コミュニティとの融合

- 近年、鉄道沿線でのマンション立地が増加傾向。とりわけ明石から尼崎間の「駅近」で、6階以上に住む共同住宅世帯数の割合が高く、今後も「駅近」へのマンション立地は継続するものと考えられる。マンションでの垂直化したコミュニティは周辺コミュニティと連携できないケースもあり、地域での支え合い、助け合いに影響を及ぼす。

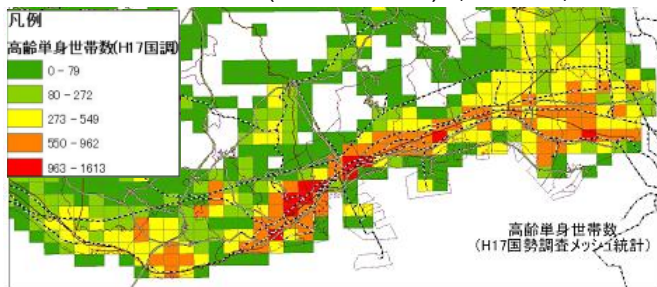
【6階以上に住む共同住宅世帯数の割合(H17年 1kmメッシュ)(図表3-15)】



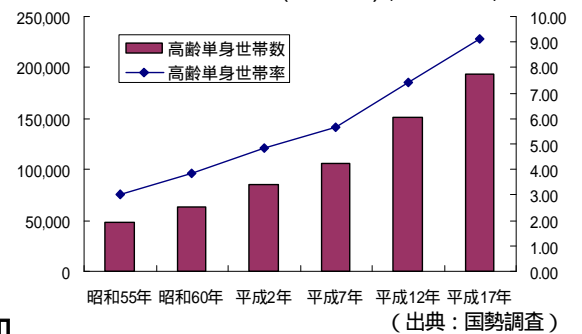
都市部での高齢者・単身世帯の増加

- ・ 県内の高齢単身世帯は、阪神間の鉄道沿線で、これまでの人口移動が少なかったエリアに集中。今後高齢化の進行とともに阪神間でさらに高齢単身世帯が増加すると考えられる。

【高齢単身世帯数(1kmメッシュ)(図表3-16)】



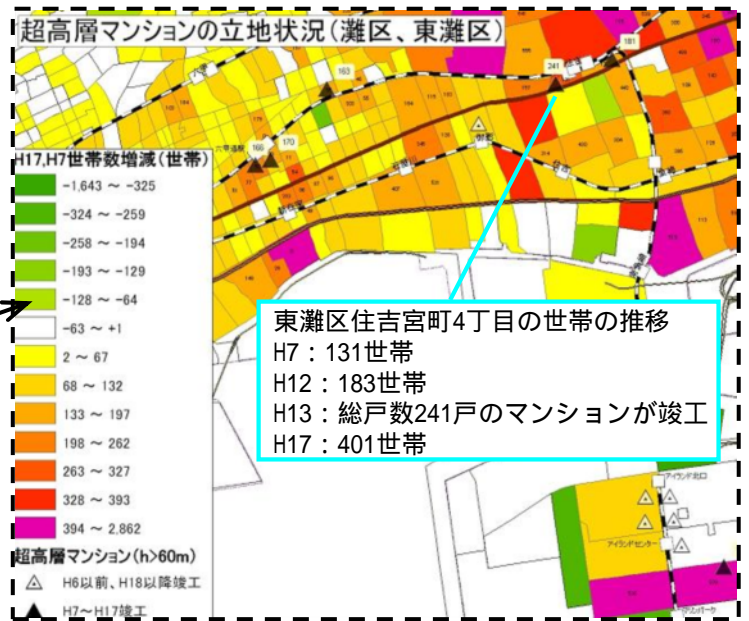
【高齢単身世帯数・率(兵庫県)(図表3-17)】



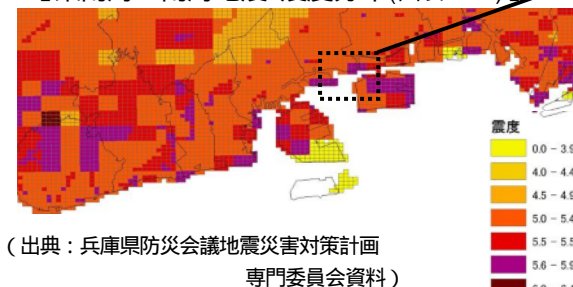
東南海・南海地震の被害想定域での超高層住宅の増加

- ・ 東南海・南海地震の今後30年以内の発生確率は60%~70%。この地震では、長周期地震動が起こると考えられており、超高層ビルなどではこうした地震動に共振し、揺れがさらに大きくなって被害を招く恐れがあるため、高層建築が増加する阪神間ではその対策が急務となっている。

【高層マンションの立地状況(灘区、東灘区)(図表3-19)】



【東南海・南海地震 震度分布(図表3-18)】



(5) 地域の自立・活性化に向けた課題

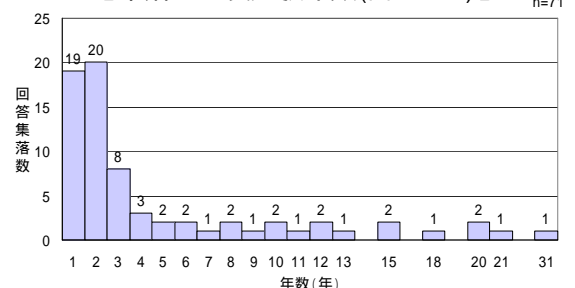
次世代への地域づくりの担い手不足

- ・ これまで地域づくりを担ってきた層の高齢化が進み、後継者不足が顕在化している。

県民の意見

➢ 30代・40代は、勤めに出ていて忙しいこともあり、集落で何かしようといった話には否定的な者も多く、話し合いがなかなかまとまらない(豊岡市須野谷)

【集落の区長経験年数(図表3-20)】



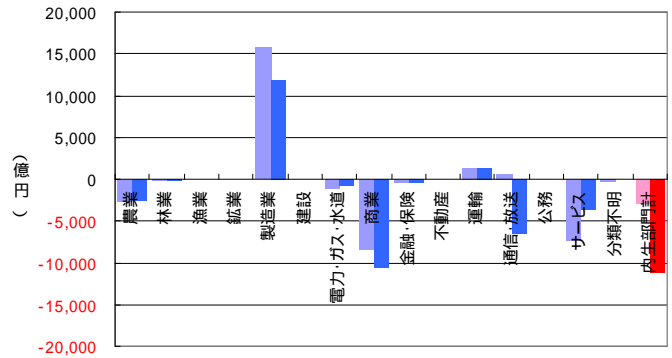
県内資金の域外流出による地域活力の低下

- ・ 財、サービスの移入超過（赤字）が拡大しており、県内資金の域外流出が続いている。
- ・ 県内金融機関の預貸率も低下傾向にあり、県内資金(預金)の域外流出が続いている。

(出典：兵庫県産業連関表(平成12年表・平成17年表))

* 製造業、商業、通信・放送における域外調達が増加し、域際収支の赤字が拡大。

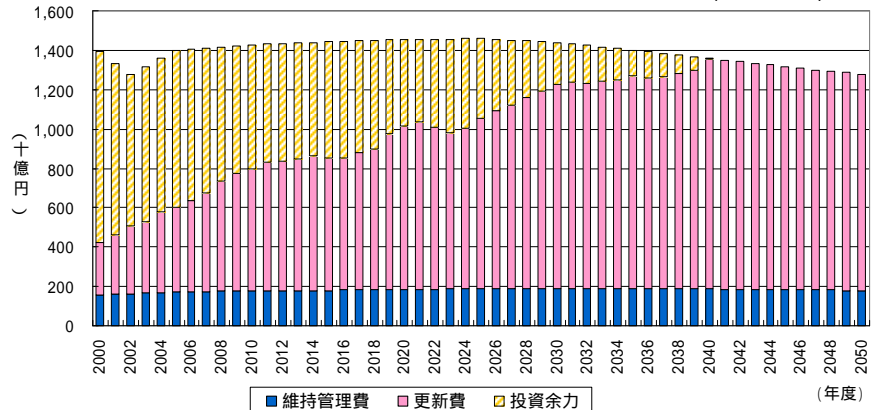
【域際収支の推移(産業部門別:H12 H17)(図表3-21)】



増加する社会資本の維持更新費

- ・ 社会資本の維持更新費が増加傾向にあり、今後も一層増加する見込み。社会資本の維持管理が不十分になるおそれがある。
- ・ 新規整備は一層困難になり、施設の転用や多目的化により最大限使いこなすことが重要になる。

【兵庫県内の社会資本ストックの維持更新費将来推計(図表3-22)】



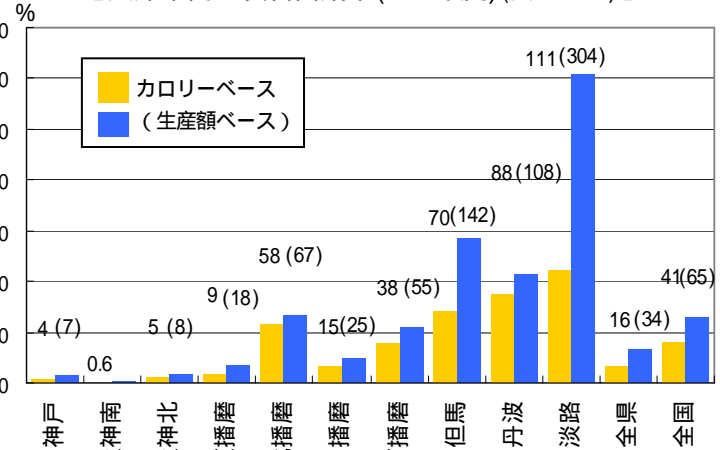
(出典：人口減少社会の展望研究報告書(兵庫県 H17.3))

本推計の総額(公的固定資本形成)の将来見込みは、同チームが実施した03年度以降 GDP 推計値の増減率により変動させた値である。

自給持続が求められる食料とエネルギー

- ・ 県内の食料自給率は全国より低水準であるが、地域ごとでは淡路、丹波、但馬などで高い傾向にある。多自然地域を中心に食料の生産基地として活用していくことも必要と考えられる。
- ・ 兵庫県の再生可能エネルギー自給率は、エネルギー需要量が多いことも影響し、全国40位(1.27%)に止まっている。地域の豊富な資源を生かしたエネルギー生産が求められる。

【兵庫県内の食料自給率(H20年度)(図表3-23)】



(出典：兵庫県総合農政課調べ)

【再生可能エネルギー自給率(H21・都道府県別、県内市町別上位5位)(図表3-24)】 (単位：%)

順位	都道府県名	自給率	順位	都道府県名	自給率
1	大分県	25.13	40	兵庫県	1.27
2	秋田県	18.30	:	:	:
3	富山県	18.05	45	沖縄県	0.77
4	青森県	13.78	46	大阪府	0.40
5	鹿児島県	12.95	47	東京都	0.20
:	:	:	全国平均		3.25

順位	市町名	自給率
1	神河町	46.41
2	宍粟市	27.02
3	南あわじ市	20.60
4	新温泉町	10.83
5	豊岡市	8.35

(出典：永续地帯2010年版報告書(千葉大学公共研究センター、環境エネルギー政策研究所))